

橋瓜
貫一
編輯

近世四戰紀聞

一

926
13-10020

明治十一年四月上梓

橋爪貫一編輯
近藤圭造校閱

近世四戰紀聞

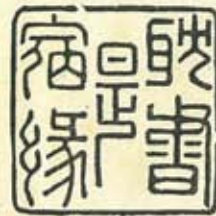
明治十年十一月廿八日版權免許



萬山明
月一書

山田公題字

鐘
空齋
明治戊寅書



近世四戰紀聞

凡例

一此書紀聞ヲ以テ名トス、其詳カナルヲ悉ス能ハスト雖モ、當時戰鬥ノ形狀ノ如キハ、現ニ其人ニ遇テ聞クアリ、新聞記事ヲ拔萃スルアリ、敢テ杜撰ニ記スルニアラス、

一凡ソ毎日、各所對戰休戰必ズ事ノ記スベキアリ、悉ク誌ス能ハスト雖モ、此書次第ヲ逐テ之ヲ録出ス、假令バ覺島戰記、熊本連絡前ノ如キ、某日ノ事ヲ記スルニ、先ヅ籠城ヲ記シ、次ニ田

原坂本道ノ事ヲ出シ、次ニ山鹿口ヲ録シ、次ニ
背後ハ代口ヲ記シ、次ニ日向口ニ重嶺ノ事ヲ
出シ、次ニ近國ノ動搖ヲ記シ、次テ兵庫大阪東
京、出軍等ノ事ニ及ブ、毎日斯ノ如キ能ハズト
雖、大事アレバ必ズ記ス、故ニ此書、二讀法ア
リ、一ハ全戰ノ勝敗ヲ通讀スルナリ、一ハ各地、
一所々々ノ勝敗ヲ別讀スルナリ、月日ヲ數ヘ
テ、各地戰記ヲ通覽ス、是全戰通讀法ナリ、其日
々々ノ下ニ就テ、各地ノ戰記ヲ分拆シ看ル、是
各戰別讀法ナリ、此書ヲ讀ムニ、此二法ヲ用ヒ

バ、戰地ノ形勝、戰爭ノ成敗、瞭トシテ、錦ノ如ク、
火ノ如シ、看容此意ヲ了セヨ、各戰別讀トハ、タ
トヘバ、田原坂口ノ戰記ノミヲ通讀セント欲
セバ、某ノ日某、日記スル所、田原坂口ノ事蹟ノ
ミヲ探リ出シ、朱紙ヲ帖シテ、接續ノ標的トシ、
他所ノ記事ヲ探起シテ、其事蹟ノミヲ見ルヲ
云フ、他皆之ニ倣フ、

東 伏 見 宮



--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

六世四代記開

卷一

江藤新平像



近世四戰紀聞卷一

東京

橋爪貫一 編輯

近藤圭造 校閱

佐賀戰記

明治七年二月、前參議從四位江藤新平、從四位島義勇、佐賀縣ニ據リ、亂ヲ起ス、三日福岡縣ノ電報東京ニ達ス、官陸軍省ニ令シ、省又電報ヲ以テ、熊本鎮臺ニ令シ、縣官ト議シテ、鎮壓セシム、初メ六年十月、廟堂征韓ノ議アリ、廟議ニツニ分レ、征戰ヲ主ルアリ、非征ヲ主ルアリ、非戰ヲ主ル者、右大

臣岩倉具視、參議木戸孝允アリ、征伐ヲ主ル者、參議兼陸軍大將西鄉隆盛、參議兼外務卿副島種臣、參議兼副議長後藤象次郎、參議板垣退助、參議兼司法卿江藤新平アリ、右大臣斷然征韓ノ非ヲ論ジテ曰ク、今東北強魯ノ慮リナキニ非ズ、内務未ダ整頓セズ、師ヲ海外ニ出スノ秋ニ非ズト、議即チ止ム、是ニ於テ西鄉先ヅ冠ヲ懸テ、國ニ去ル、尋テ江藤、副島、板垣、後藤ノ諸氏病ニ托シ、官ヲ辭シテ退ク、物情洶々然レ、諸參議退職ノ後、又各志ス所アリテ、同趣ナラス、獨リ江藤氏前議ヲ固執

シテ鬱陶閉居ス、時ニ同縣ノ士、朝倉尚武等、東京ニアリ、大ニ江藤等征韓ノ議ニ服シ、歸縣シテ諸同志ニ謀ル、雷同スル者算ナシ、此年一月ニ至リ、其黨中島鼎藏、山田平藏等、遂ニ上京シ、窺ニ江藤ト議シテ曰ク、本縣同志ノ者鮮シトセズ、唯首唱シテ指麾スル者ヲ缺ク、公豈意ナキカ、公果シテ之ガ帥タラバ、我輩先ダツテ歸縣シ、豫メ其意ヲ通ゼン、江藤依テ心大ニ動キ、以爲ク我レ佐賀ヲ以テ起ラバ、西方諸縣、必ズ景從蜂起セン、依テ大ニ聲勢ヲ張ラバ、以テ廟議ヲ動カスニ足ント、遂

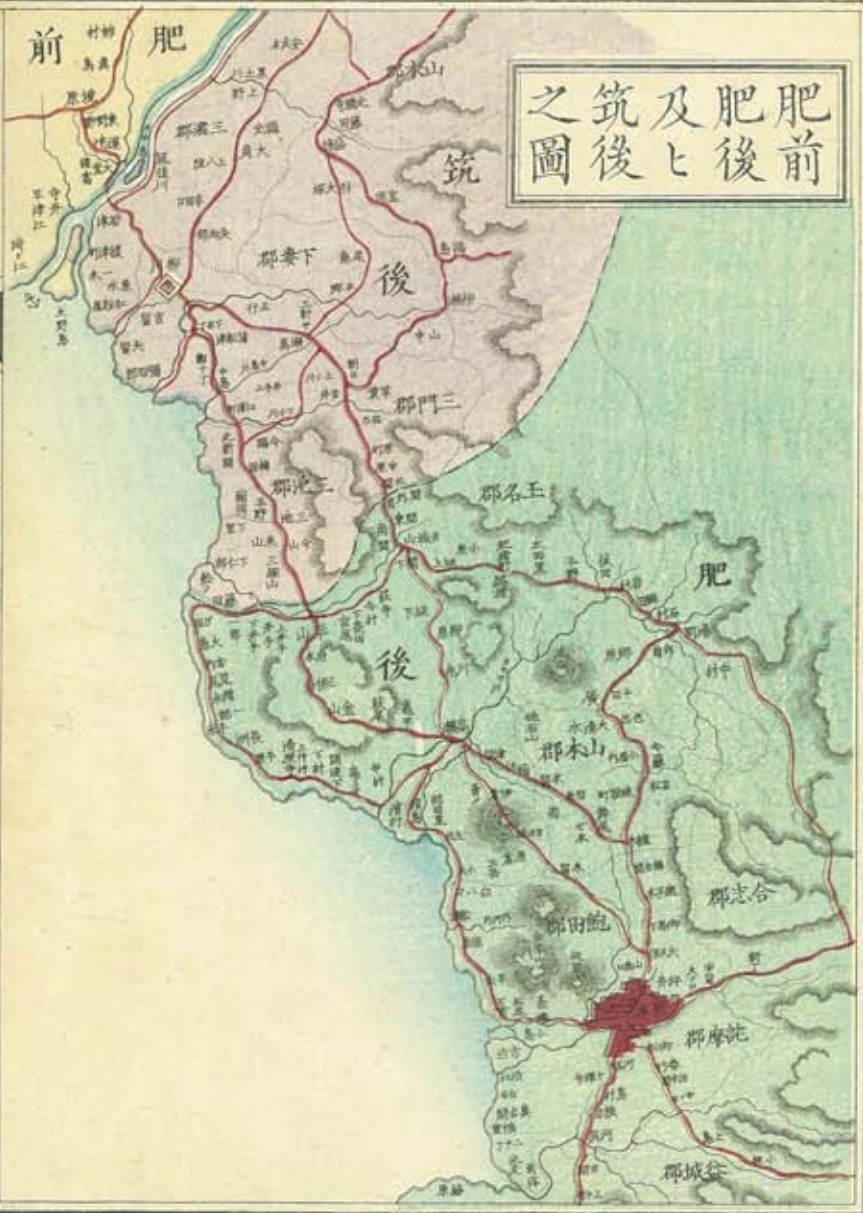
ニ前議ヲ遂ルニ決シ、中島等ヲ懲通シテ還ス、尋
デ二十五日、江藤東京ヲ去リ、航シテ佐賀ニ至リ、
其黨ノ魁首トナル、是ニ至テ、黨與勢ヒヲ得テ、大
ニ糧仗ヲ儲ヘントス、同縣ノ舊武庫、及ヒ官舎ヲ
略取シ、電線ヲ截斷シ、縣下ニ軍資ヲ募リ、此月二
日、俄然多衆ヲ以テ、小野組ノ銀行ヲ圍ミ、金幣ヲ
掠奪ス、一縣大ニ騷擾ス、敢テ縣廳ノ令ヲ顧慮ス
ル者ナキニ至ル、江藤ノ黨、縣廳ヲ襲ヒ、參事森長
義ヲ害セントス、初メ事ヲ起スヤ、黨人高木太郎
等十餘人、參事ニ逼リ、縣ノ議事局ヲ借ントス、參

事聽カズ、太郎等憤リテ、諸什器ヲ踏籍シ、惡言ヲ
出シテ去ル、參事形勢ノ容易ナラザルヲ以テ、難
ヲ長門赤間關ニ避ク、佐賀縣士族副島義高、村山
長榮等、別ニ議ヲ起シ、同志ヲ募テ、黨ヲ建ツ、是ニ
於テ、江藤ノ黨ヲ征韓ト云ヒ、副島等ノ黨ヲ憂國
ト云フ、凶焰頗ル熾シナリ、先是佐賀縣權令岩村
高俊、東京ニアリテ、未ダ任ニ赴カズ、變ノ坐視ス
ベカラザルヲ以テ、東京ヲ發セントス、奏請シテ
曰ク、臣管下、士族嘯集スト、臣恐懼ニ堪エズ、願ク
ハ往テ事由ヲ紀訊シ、其論ズル所、朝旨ニ悖戾シ、

寶琳坊
佐賀
城下

人心ヲ煽動スルアラバ、臨機ノ計ヲ以テ、其巨魁
 フ縛セン、如シ然ラズレテ、衆ヲ要シ、上京建言セ
 ンヲ謀ラバ、斷然之ヲ制止セン、苟モ暴舉既ニ
 顯ル、ニ至テハ、已ムヲ得ズ、管下士族ヲ編制シ、
 兵力ヲ以テ之ヲ鎮壓セント、朝議之ヲ許ス、海路
 東京ヲ發ス、○七日、官陸軍省ニ令シ、省又熊本鎮
 臺ニ令シテ、暴舉近縣ニ波及スルノ勢アラバ、臨
 機ノ處分ニ及バシム、○九日、征韓黨、舊學校ニ據
 リ、憂國黨、寶琳坊ニ屯ス、兩黨ノ暴徒凡ソ二千五
 百人ヲ嘯集ス、此日參議兼內務卿大久保利通ヲ

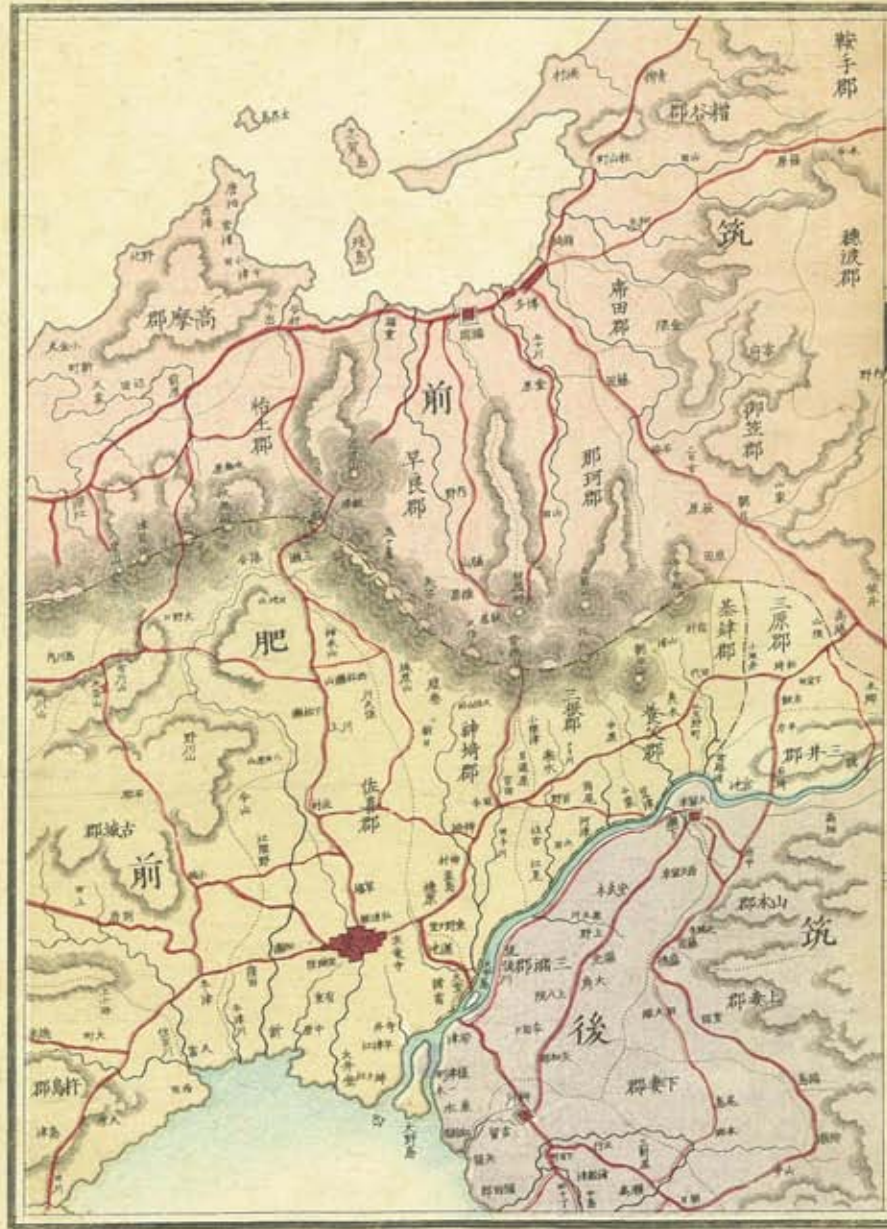
肥前肥後及後筑之圖



近世四民記

卷之二

四



シテ、九州ニ出張シ、暴徒處分、兵馬參謀トナシ、内
 務大藏司法諸省ノ官員隨行ヲ命ズ、海軍秘書官
 遠武秀行、東艦ニ乘シテ、品海ヲ發ス、○十日、岩村
 權令、長門ヲ過グ、時ニ森參事、避テ赤馬關ニアリ、
 權令ヲ邀ヘ、告テ曰ク、事己ニ一縣ニ及ブ、寡兵之
 ヲ制シ難シト、因テ詳カニ兩黨暴舉ノ狀ヲ陳ブ、
 權令即チ參事ヲシテ、山口縣廳ニ趣キ、事ヲ謀ラ
 シメ、自ラ熊本鎮臺ニ赴ク、○十一日、島義勇、長崎
 ニ至ル、先是、島ハ前秋、田縣令解職ノ後、亦東京ニ
 在リ、憂愁無聊、每ニ志ヲ得ス、遙ニ縣地ノ事ヲ聞

長世回戦已開
 卷之一
 五

五十四 軍勢
キ、機ニ投ジテ意ヲ遂ント欲シ、其弟重松基吉ヲ
携ヘ、佐賀ニ至ントス、此日長崎ニ着ス、適江藤ニ
遇フ、島ガ曰ク、聞ク熊本鎮臺兵將ニ佐賀ニ入城
シ、我黨ヲ討ントス、我黨ノ死生今日ニアリ、戦テ
勝ツバ、各其志ヲ遂ン、公以テ如何トナス、江藤曰
ク、我が見ル所亦同ジ、故ニ畧兵備ヲナス、願フニ
君ト同心戮力セバ、萬一ヲ僥倖セント、遂ニ議シ
テ謀略ヲ定ム、○十二日、東京鎮臺第三砲隊、大坂
鎮臺歩兵二大隊ヲ發シテ、熊本ニ遣ル、○十三日、
江藤島二魁、相共ニ佐賀ニ入ル、是ニ於テ島ヲ推

シテ憂國黨ノ魁首トス、島新タニ東京ヨリ至ル
ヲ以テ、急ニ權宜ヲ設ケ、其黨ヲ教唆シテ曰ク、天
下將ニ亂ントス、有志ノ徒、已ニ端ヲ東京ニ開ク、
事素ヨリ抑壓スベカラズ、今本縣機ニ先テ、事ヲ
舉グ、誰カ嚮動セザル者アラント、其徒已ニ江藤
ノ至ルヲ悦ブ、又島ノ言ヲ聞キ、皆以爲ク兩人素
ヨリ時勢ヲ見ルニ誤ラズト、益々志ヲ固クシ、即
夜香月經五郎、山田平藏、山中一郎、朝倉尚武等、二
魁ト會シ、臺兵ノ將ニ入ントスルヲ語り、謀議決
セズ、江藤曰、事已ニ此ニ至ル、何ゾ猶豫ヲ爲シ、人

刃ヲ我頸ニ加ヘテ拒ガズ、尚坐シテ死ヲ致シ乎、
我黨寧口先ンシテ之ヲ制セン、衆之ニ從ヒ、直チ
ニ滿國勇ナル者ヲシテ、檄ヲ作ラシメ、遠近ニ傳
ヘテ曰、朝鮮國ノ我ガ國書ヲ擯ケ、我ガ使節ヲ辱
カシムル、暴慢無禮、言フニ忍ビザル者アリ、是ヲ
以テ去年十月、廷議悉ク征韓ニ決ス、而ノ一二ノ
大臣、偷安是圖リ、聖聽ヲ壅蔽ス、是我儕ノ扼腕奮
起スル所ナリ、而ノ大臣等、其己レニ便ナラザル
ヲ以テ、遷カニ兵ヲ我ニ加ントス、我儕豈止ムベ
ケンヤ、依テ之ヲ卻ケ、錦旗ヲ奉シ、以テ速ク朝鮮

川上 肥前 佐嘉郡

ノ罪ヲ問ハントス、有志者其レ之ヲ諒セヨト、是
ニ於テ、征韓黨ハ本營ヲ川上ニ置キ、憂國黨ハ寶
琳坊ヲ本營トナシ、以テ諸道ノ備禦ヲ修ム、此日
岩村權令、熊本ニ於テ、陸軍少將谷干城ト軍議ヲ
決シ、其臺兵ヲ分チ、路ヲ海陸ニ取リ、共ニ佐賀縣
ニ入ントス、先是、熊本鎮臺、出兵ノ命ヲ受ルニ當
リ、議ノ曰ク、臺兵二大隊、其一中隊ハ嘗テ對馬ニ
分遣シ、其一小隊ハ日田分營ニアリ、餘ス所ハ、一
大隊半ニ過ギズ、今其半大隊ヲ以テ、臺ヲ守ラシ
メバ、出戦スル者僅カニ一大隊ノミ、若シ急遽出

戰シ、一旦蹉跌ヲ取ルアラバ、近隣諸縣ノ首鼠輩、
必ズ虚ニ乗ノ蜂起シ、遂ニ後圖ヲ爲シ難キニ至
ン、如カス急ニ使ヲ東京ニ遣シ、軍艦及ヒ歩砲兵
ヲ請ヒ、其来ルヲ待テ、カヲ併セ、一舉ノ之ヲ鎮壓
センニハト、乃チ陸軍中佐中村重遠ヲシテ、東京
ニ赴カシメ、本臺ノ警備ヲ益々嚴ニス、既ニノ權
令護衛ノ兵ヲ請フニ及ビ、又議ノ謂ヘラク、嚮ニ
鎮壓ノ命ヲ奉ジ、今又權令ノ請ヲ受ク、義已ム可
ラズト、乃チ決議ノ歩兵第十一大隊ヲ分チ、左右
二隊トシ、陸軍少佐佐久間左馬太、右半大隊ヲ率

キ、陸路ヨリ進ミ、陸軍少佐山川浩、大尉和田勇馬、
左半大隊ヲ率キ、海路ヨリ乃母舞鶴二船ニ乗ジ、
權令一行人ヲ護シテ、進ム兩隊合ノ六百四十八
人、其他兩隊ニ屬スル者、裁判會計武庫軍醫各部
合ノ八名アリ、此日陸軍少將鳥尾小彌太ヲ大坂
ニ、同ク井田讓ヲ廣島ニ、同ク山田顯義ヲ西園ニ
遣リ、同ク野津鎮雄ニ命シテ、鎮臺兵指揮長官ト
ナス鳥尾野津兩少將先ヅ大坂ニ赴ク、○十四日
岩村權令、山川少佐等ト俱ニ乃母船ニ乗ジ、午後
五時、筑後河口ニ至ル、潮候涸レテ進ム能ハズ、而

筑後河
前界

瀬高 筑後
三河郡

シテ舞鶴船未ダ至ラズ、陸路ノ臺兵ハ、路ヲ筑後
瀬高驛ニ進ム、此日大久保參議、山田井田兩少將
一行人、北海丸等ニ乗ジ、午後五時、錨ヲ横濱港ニ
開キ、海軍少秘書、足達長卿、海軍中尉牧兼甫等モ、
亦雲揚艦ニ乗テ、品海ヲ發ス、○十五日午前十一
時、乃母船進テ早津江ニ至リ、上陸ス、此地佐賀城
ヲ去ル一里餘、時ニ佐賀縣士族前山精一郎ナ
ル者アリ、斷然兩黨ノ所爲ヲ非トシ、別ニ保護黨
ヲ建テ、義兵ヲ聚ム、兩黨ノ氣焰ヲ避テ、諸富ニア
リ、賊情ヲ諜シ、窺カニ其黨吉田正之助ヲ走ラセ、

早津江 肥前
佐嘉郡

諸富 同上

權令ニ面シ、兩黨ノ所爲ヲ告ゲ、以テ情實ヲ述ブ、
權令依テ略々兩黨ノ形狀ヲ知り、大ニ前山等ノ
志ヲ賞シ、密旨ヲ授ケ、吉田ヲ慰諭シテ還ス、午後
一時、權令以下臺兵入城ス、江藤即チ中嶋鼎藏、香
月經五郎等ヲ寶琳坊ニ走ラセ、明日城内侵撃ヲ
約ス、時ニ城中糧ナシ、權令急ニ之ヲ縣下ニ徵ス、
縣民皆兩黨ヲ恐レテ應ゼズ、權令即チ私ニ人ヲ
市街ニ遣リ、僅カニ米八斗ヲ買フ、午後八時、舞鶴
船、早津江ニ至ル、臺兵上陸シテ、夜十二時亦佐賀
城ニ入ル、此夜二時、前山又吉田正之助ヲ走ラセ、

告テ曰ク、今夜、兩黨將ニ襲撃セントス、請フ其備

ヲナセ、權令因テ急ニ將士ヲ戒ム、天將ニ明ント

ス、此日臺兵ヲ送ル所ノ乃母船、直チニ纜ヲ解キ

還ル、舞鶴船ハ潮候惡キヲ以テ、未ダ纜ヲ解カズ、

遂ニ賊ノ爲ニ獲ラル、右半大隊、此晨將ニ高瀬驛

ヲ發セントスルニ當リ、安田大尉、左半大隊ニ議

スルヲアリテ先ヅ發シ、十里ニシテ、若津ニ至リ、其

既ニ城ニ入ルヲ聞キ、進テ筑後河ヲ渡ラントス、

河上ニ伏兵アルヲ見テ、乃チ遽カニ服ヲ變ジ、岸

ニ登ル、佯テ三潯縣士族ト稱ス、賊其佯リヲ覺ラ

若津 筑後 三潯郡

ズ、敢テ禁呵スル者ナシ、既ニノ賊ノ斥候ニ遇フ、

兵中ニ中山某ナル者アリ、嘗テ鎮臺ニアリテ軍

曹ニ任ズ、故ヲ以テ大尉ヲ識レリ、大尉欺テ曰、僕

モト三潯縣ノ士族、嚮キニ官ヲ罷メ、今將ニ縣ニ

歸ラントス、唯此地ノ景況ヲ觀ンコトヲ欲シ、路ヲ

迂ノ此ニ至レリト、某之ヲ信ズ、復タ詰ラズ、遂ニ

城ニ入ルヲ得タリ、是時午前十一時ナリ、右半大

隊ハ高瀬驛ヲ發メ、三池驛ニ陣ス、午後七時、前山

又人ヲ遣リ、賊黨ノ兵端開ントスルノ状ヲ報ズ、

永山中尉、乃チ佐賀ニ赴キ、其虛實ヲ候フ、此日東

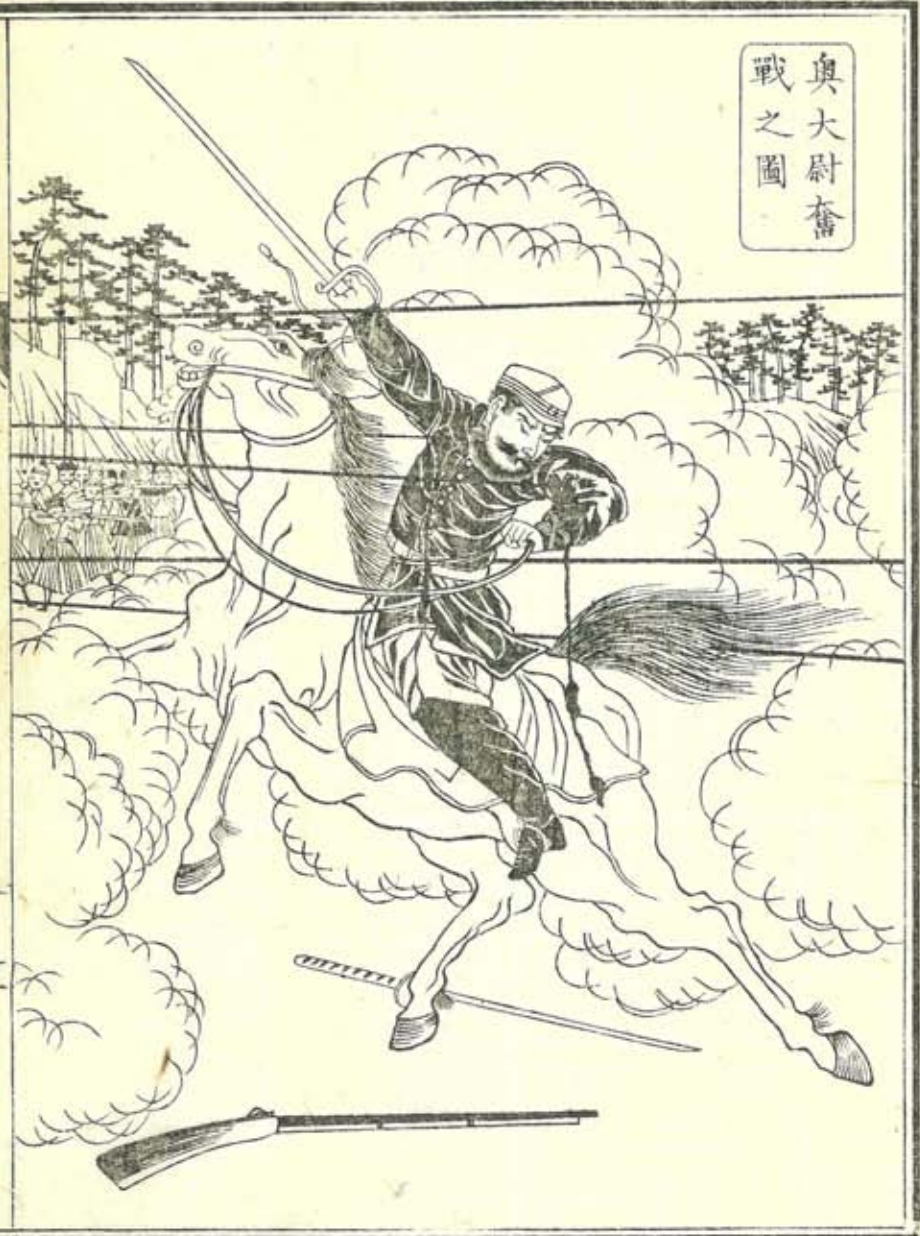
高瀬 肥後 三潯郡

三池 筑後 三潯郡

永山中尉、乃チ佐賀ニ赴キ、其虛實ヲ候フ、此日東

京ニ於テ、海軍大尉青木住真等、大坂丸ニ乗テ、品
 海ヲ發ス、○十六日黎明、兩黨齊シク進テ、城ノ四
 面ヲ圍ミ、既ニ東門ノ圍ヲ解キ、三面ヨリ砲擊
 ス、臺兵善ク拒グト雖ヒ、城中獨リ歩兵銃隊ノミ
 ニシテ、大砲ノ備ナシ、頗ル防禦ニ苦シム、而シテ糧已
 ニ支エズ、衆相議シ、圍ミテ衝キ出ント、午前七時、
 奥大尉等二分隊ヲ率テ、突然北門ヨリ出テ、縦横
 揮撃ス、外郭ノ西北隅ニ武庫アリ、賊樓上ニ據リ、
 小銃ヲ亂射ス、奥大尉左腕ニ傷ツク、勇ヲ奮テ益
 ヲ進ム、銃丸復々其胸ヲ洞シ、創重クノ進ム能ハ

奥大尉奮戰之圖



ズ、是ニ於テ、城中警備兵ヲ除クノ外、悉ク出テ突
 戦ス、賊兵辟易、官軍進テ賊營ヲ奪フ、斬馘頗ル多
 シ、山川等、火ヲ武庫及ビ諸邸ニ放テ、乘ノ米三十
 苞、小銃彈藥等ヲ獲テ還ル、此戰大池大尉砲丸ニ
 殪レ、山川少佐奥大尉等、大傷ヲ被リ、其他下士兵
 卒死スル者三人、傷ク者五人、是夜賊兵、城後及ビ
 左右ヨリ砲擊、曉ニ徹ス、熊本陸路ノ兵、今曉三池
 ヲ發シ、中嶋川ニ至レハ、永山中尉ノ馳歸ルニ遇
 ヘリ、中尉ノ佐賀ニ赴クヤ、往キテ未ダ筑後河ヲ
 渡ラザルニ、遙ニ佐賀城ノ砲聲、雷ノ如キヲ聞テ、

忠
 山門郡
 筑後

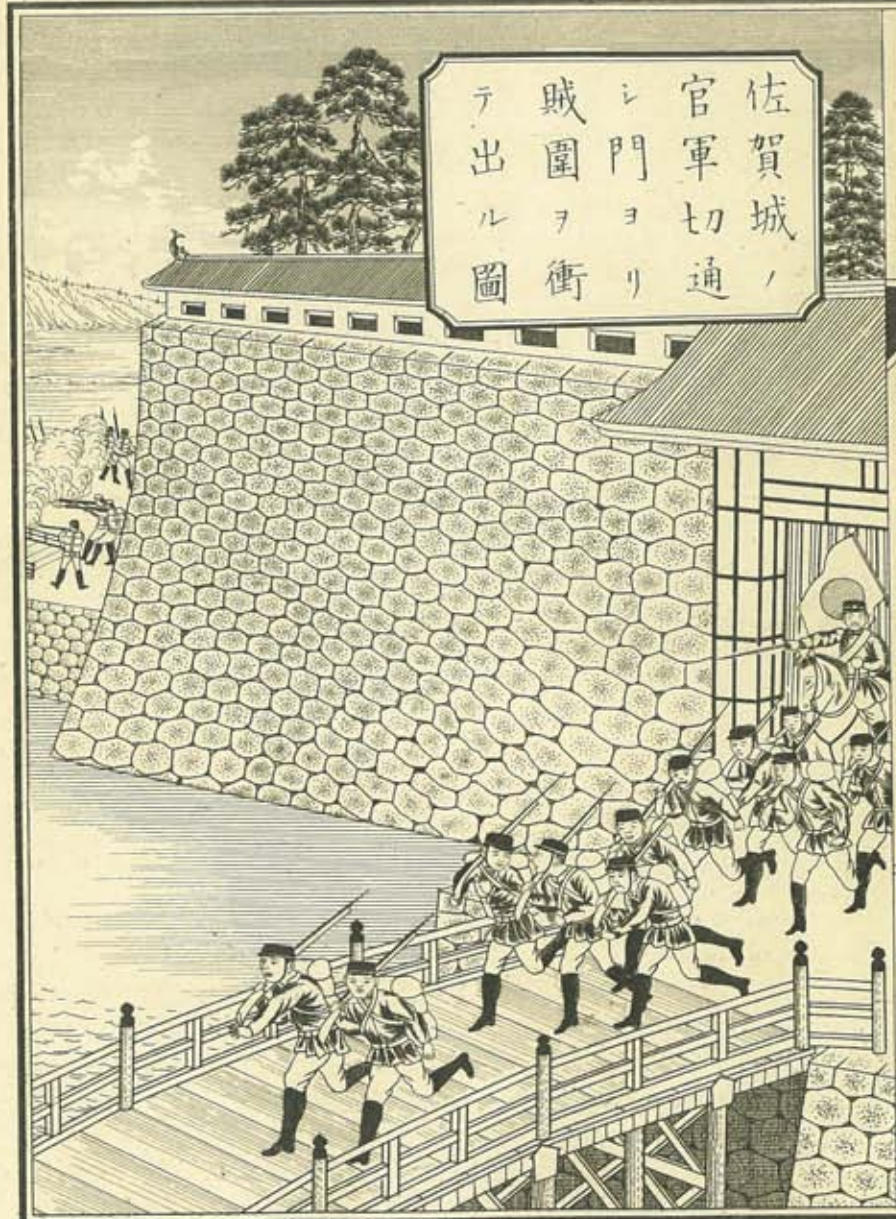
即チ急ニ歸リ報ズルナリ、因テ中尉ヲノ、狀ヲ熊
 本ニ報ゼシメ、進ミテ瀬高驛ニ軍ス、前山精一郎、
 此日官軍半大隊、佐賀城ニ殲キタリト聞キ、陸路
 ノ半大隊ニ合セントシ、其部下ヲ率キ、馳テ瀬高
 ニ至リ、賊黨ヲ討ノ情ヲ述ブ、衆議謂ラク、彼レ正
 義ヲ表スルモ、部下皆佐賀士族ナリ、其情測リ難
 シ、未ダ請ヲ許ス可カラズ、且我隊彈藥、人毎ニハ
 十發ニ過ギズ、左半大隊ノ圍城中ニアルモ、未ダ
 道路梗塞、赴援スベカラズ、宜ク軍ヲ府中ニ移シ、
 本臺彈藥ヲ輸スルヲ待テ、筑後河ノ上流ヲ渡リ、

進ミ戰フベシト、午後五時、軍ヲ府中ニ移シ、人ヲ
日田ニ馳テ、米穀百五十石ヲ買ハシム、是日、北海
丸神戸ニ入ル、大久保内務卿、大坂ニ至ル、○十七
日黎明、賊兵復タ來リ砲撃ス、官兵苦戰、而ノ城中
糧又盡キ、計ノ出ヅベキナク、固守ノ右半大隊ノ
援ヲ待ツ、大坂鎮臺、是日ヲ以テ、第四第十兩大隊
ヲ發ス、第四大隊ハ、陸軍少佐厚東武直隊長タリ、
第十大隊ハ、陸軍少佐茨木惟昭隊長タリ、第三砲
隊ハ、前三日ヲ以テ、東京ヲ發ス、陸軍大尉山崎成
高隊長タリ、歩砲三隊合テ一千三百六十四人、野

津少將ヲメ、之ヲ總ベシメ、陸軍少佐渡邊央ヲ參
謀トス、大久保内務卿、山田少將、野津少將、及ビ第
四大隊ハ、米國ノ新約克號ニ乗ジ、渡邊少佐及ビ
第十大隊ハ、北海丸ニ乗ジ、安治川口ヲ發ス、是時
第三砲隊、猶龍丸ニ乗テ、恰モ東京ヨリ至ル、俱ニ
博多ニ向テ發ス、○十八日黎明、賊兵四面砲撃益、
急ナリ、右半大隊至ラズ、糧既ニ竭ク、城中議シテ
半大隊ヲ三分シ、其一小隊ヲ以テ先鋒トシ、山脇
大尉等之ヲ率ユ、其一中隊之ニ次グ、山川少佐以
下士卒ノ創痍ヲ被ル者、及ビ岩村權令ヲ其中ニ



竹多五



佐賀城ノ
官軍切通
シ門ヨリ
賊圍ヲ衝
テ出ル圖

擁シテ出ツ、津井城天野中尉等之ヲ率ユ、最後ノ
 一隊ハ、下士兵卒從僕等之ニ屬ス、部署已ニ畢リ、
 切通シ門ヲ開キ、全兵賊圍ヲ衝テ、豨出シ、且、撃チ
 且、進ム、賊城ヲ圍ム、既ニ累日、城外多ク砲臺ヲ
 起シ、攻具頗ル備ハルヲ以テ、大ニ之ヲ要撃シ、銃
 砲交發シ、飛丸雨ノ如ク、官兵ヲ窘蹙ス、官兵走テ
 蓮池官道ヨリ、諸富ニ出ントス、賊勝ニ乗ジテ尾
 撃益々急ナリ、官兵走テ未ダ諸富ニ至ラズ、路ニ
 一分隊ノ兵ヲ見ル、官軍嚮ニ前山隊ノ諸富ニア
 ルヲ聞キ、問テ前山隊ト爲シ、因テ嚮道ヲ命ズ、賊

蓮池

肥前 佐喜郡

佯リ諾シ、之ヲ伏中ニ誘フ、四面兵起リ、官軍狼狽、
 僅ニ圍ヲ脱シ、筑後河ヲ濟ル、渡ヲ争ヒ、溺死スル
 者多シ、能ク泗グ者ハ遁ル、賊兵又追ヒ來リ、後ヨ
 リ其船ヲ銃撃ス、一舟死傷甚ダ多シ、津井城中尉、
 免レザルヲ知リ、洲上ニ至テ屠腹ス、中尉率ル所
 ノ中隊ノ一小隊、創者及ビ縣官等、賊ニ要撃セラ
 レ、各自挺身、羣ヲ亂シテ逸走ス、賊尾撃益々急ナ
 リ、大池大尉以下、伏屍枕藉、隊伍擾亂シ、全キ者ナ
 シ、西島大尉殘兵二十餘人ヲ率キ、後レテ至ル、亦
 途ニシテ、兵卒一群ヲ見ルモ、亦前山隊ト爲ス、賊

倭ルヲ前ノ如シ、乃チ嚮導シテ進ム、賊遽カニ起
リ、前後ヨリ夾撃ス、二十餘人大ニ愕キ、殊死ノ戰
ヒ、河ニ沿テ走り、又賊中ニ陷ル、賊四面ヨリ圍ミ
撃ツ、二十餘人走テ民舎ニ入り、西島等屠腹セン
トス、創ヲ被リ、自盡スル能ハザル者三名ヲ刎ヌ、
自殺スル者十二名、西島將ニ自殺セントス、會々
賊石井某一小隊ヲ帥キ来リ、縛シテ去ル、一隊ハ
山川少佐、和田大尉以下、岩村權令ト共ニ、行々賊
ノ追撃ヲ拒ギ、路ヲ海島ニ取り、筑後河ノ上流ヲ
渡リ、午後四時、府中ノ軍ニ投ズ、一隊ハ安田大尉

境原 肥前
神埼郡

直島 同上

河津 肥前
三根郡

等九十四人、傷者奥大尉等ヲ護メ、蓮池ニ走り、賊
ノ斥兵二人ヲ斬リ、遂ニ境原ヨリ、直島村ニ出ツ、
一小河アリ、對岸賊旗ヲ見ル、三本少尉、兵卒三十
人ヲ率キ、上流ヲ渡リテ、横サマニ之ヲ衝ク、安田
大尉、餘兵ヲ以テ本道ヨリ進マントス、追兵大ニ
至ル、官軍死ヲ冒メ、拒ギ闘ヒ、賊圍ヲ衝テ筑後河
ニ至ラントス、兵卒谷村計介、獨リ進デ沿道ノ賊
ヲ探リ、河津ニ至リ、舟ヲ艤メ待ツ、是ニ於テ河ヲ
渡リ、府中ニ達スルヲ得ル、夜ニ及デ殘兵、府中ノ
軍ニ至ル者、陸續相踵グ、城中戰鬪ヨリ、此ニ至テ、

畏肥前
基雄郡

死傷凡ソ二百人、是日、小島大尉、日田分營ノ歩兵
小隊ヲ帥テ、亦府中ニ至ル、賊軍即チ本營ヲ城中
ニ移シ、二魁相議シ、兵ヲ分テ、諸道ニ戰線ヲ張ル、
此時小倉ノ人岡部某事ヲ詳ニセント、佐賀ニ行
キ、江藤ニ面シ、征韓ノ意旨、及ビ前山ノ脱スル所
以、其征韓憂國ノ兩黨ヲ分ツ故ヲ問フ、江藤曰ク、
卿亦意アル乎、宜ク同志輩ト速カニ兵ヲ擧ゲ、關
ヲ田代ニ設ケ、以テ警備ヲ爲セト、岡部因テ陽ニ
事ヲ諾シテ去ル、是時ニ當リ、賊軍勢焰益熾シ、
大村平戸島原ヲ除クノ外、肥前一般皆之ニ應ズ、

其兵凡ソ八九大隊、器械鉛硝之ニ稱フ、此夜十一
時、猶龍丸、博多ニ至ル、第三砲隊上陸ス、○十九日
午時十一時、大久保參議、山田少將一行、及ビ野津
少將、大坂鎮臺第四大隊ヲ率キテ、博多港ニ入り、
鈴閣ヲ博多中島ニ置ク、反賊ヲ討ノ令ヲ各縣ニ
下シ、福岡小倉二縣ニ令メ、其管下、士民ヲ精撰シ、
各自ニ編隊セシム、又諜者ヲ出シ、賊兵ノ動靜ヲ
探ル、諜者曰ク、賊等四境ヲ固守シ、兵備甚ダ嚴ナ
リト、此日東京ニ於テ、賊徒征討ノ令ヲ海内ニ布
キ、東伏見宮嘉彰親王ヲ征討總督トナシ、陸軍中

將山縣有朋ヲ征討參軍トナシ不日東京ヲ發セン

トス、海内洶々、○二十日、午前第十時、北海丸博多

ニ至ル、第十大隊、上陸ス、佐久間少佐、府中ノ陣ヨ

リ至リ、佐賀城ノ戰狀ヲ具陳ス、此時、賊肥筑ノ國

境、田代三瀬、椎原口等ニ分屯セリ、是ニ於テ、參議

即テ諸將ヲ會シ、軍議ヲ決シ、兵ヲ三道ニ分テ、第

四第十兩大隊、及ビ第三砲隊ハ、二日市驛ヨリ、田

代朝日山ニ向テ進撃シ、熊本ノ軍ハ、便道ヲ取リ、

千粟豆津ノ賊ヲ掃撃シテ、朝日山ニ會セシム、佐

久間少佐ヲ府中ニ返ヘス、午後六時、野津少將總

二日市 筑前 御笠郡

朝日 肥前 養父郡

千粟 肥前 三稜郡

豆津 肥前 養父郡

久保 肥筑 界

三瀬越 同上

原田 筑前 御笠郡

萩原村 同上

隊ヲ引率シテ博多ヲ發シ、二日市ニ進ム、夜雨暗

黒、官軍刃斗ヲ嚴ニシ、賊ノ來襲ヲ戒ム、同日、山田

少將、福岡本營ヲ衛ル所ノ、小笠原大尉ヲメ、久保

山三瀬越ノ間道ヲ偵ハシム、賊徒ノ本營ヲ襲ヒ、

且ツ我進軍ノ後ヲ絶テ恐ルレバナリ、○廿一日

午前二時、野津少將二日市驛ニ至ル、哨兵篝火ヲ

設ケ、益々警備ヲ嚴ニシ、一小隊ヲ派出シ、斥候ト

ナシ、原田驛ニ至ラシム、午前六時、二日市驛ヲ發

ス、第十大隊、及ビ砲隊ハ、本道ヨリ進ミ、第四大隊

ハ、分レテ二隊トナリ、厚東少佐ハ萩原村ヨリ、大

ハ、分レテ二隊トナリ、厚東少佐ハ萩原村ヨリ、大

ハ、分レテ二隊トナリ、厚東少佐ハ萩原村ヨリ、大

ハ、分レテ二隊トナリ、厚東少佐ハ萩原村ヨリ、大

ハ、分レテ二隊トナリ、厚東少佐ハ萩原村ヨリ、大

ハ、分レテ二隊トナリ、厚東少佐ハ萩原村ヨリ、大

尉某ハ平等寺越ヨリ進ミ、皆田代驛ニ會ス、驛中
事ノ起ルヲ察シ、荷擔奔竄ス、官軍ノ未ダ此ニ至
ラザルヤ、賊徒數百人、驛中ニアリ、官軍ノ來撃ヲ
聞テ、昧爽佐賀ニ走ル、驛中、宗氏ノ舊藩士、數十戸
アリ、賊徒ニ脅從セララル、者、皆來リ降ル、因テ其
罪ヲ赦シ、適宜ノ使役ニ充ツ、是夜、全軍、田代驛ニ
宿シ、哨兵ヲ嚴ニシ、斥候ヲ近傍ニ出ス、熊本ノ軍
府中ニ在ル、第十一大隊ヲ云フ、正午十二時ヲ以テ發ス、先是前
山精一郎、其部下ニ諭シ、進退ヲ決セシム、辭シ去
ル者百餘名、前山殘衆ヲ率キテ、府中ニ來リ、熊本

ノ軍ニ從ハンコヲ請フ、我ガ將校疑ヒテ聽カズ、
前山、賊ノ間諜數人ヲ捕ヘテ、之ヲ斬ル、是ニ托テ
其部下五名ヲ以テ、右半大隊ノ嚮導トス、左右隊
相約ノ曰ク、右ハ宮地ヨリ河ニ循テ進入シ、朝日
山ノ砲聲ヲ聞カバ、直ニ進テ、千栗豆津ノ賊ヲ擊
ツベク、左ハ其報ヲ待テ、速ニ河ヲ濟リ、豆津ニ會
スベシト、同日、久保三瀬ノ斥兵、福岡ニ歸報ス、賊
三瀬ヲ越テ、飯場村ニ至ルト、山田少將、一分隊ヲ
遣リ、金武嶺ヲ越エテ進マシム、賊ヲ見ズ、○廿二
日、本道ノ軍、田代ヨリ、朝日山ノ賊ヲ撃ントス、第

轟木 肥前
養父郡

四大隊及ビ砲隊ハ、轟木道ヨリ進ミ、第十大隊ハ、分レテ二隊トナリ、迂回兵ヲ用ヒ、一ハ轟木驛ノ左側ヨリ、朝日山ニ向ヒ、一ハ其右路ヲ取り、朝日山ノ背ニ出ントス、午前六時、田代驛ヲ發ス、轟木驛ニ至リ、賊ノ候兵ヲ撃テ、之ヲ走セ、漸ク進テ、朝日山ノ麓ニ至ル、朝日山ハ廣原ニ屈起シ、林藪蒼鬱最モ要衝ト稱ス、賊軍險ヲ扼シテ砲臺ヲ築キ、俯シテ官軍ヲ射撃シ、彈丸雨注ス、厚東少佐、散兵ヲ布キ、正面ヨリ攻撃シ、砲隊繼テ進ム、砲撃大ニ起リ、山岳爲ニ震フ、時ニ第十大隊ノ左大隊、一ハ

山浦 肥前
基郡
宿村 同上

山浦ノ間道ヨリ、賊兵ノ横ニ向ヒ、一ハ宿村ノ間道ヨリ、賊兵ノ背ニ向ヒ、吶喊相迫リ、大小砲ヲ發シ、大ニ之ヲ撃ツ、然レモ賊、カヲ極メテ、四面猛撃、官軍殆ンド挫折セントス、隊長、士卒ヲ勵マシ、叱咤奮戰、兩軍ノ砲聲雷震ノ如シ、終ニ大ニ賊兵ヲ破ル、賊兵、火ヲ民家ニ放チ、相率テ走ル、官軍遂ニ其砲臺ヲ取り、進ンデ中原驛ニ至ル、賊兵切通シノ阻隘ニ據リ、土豚ヲ築キ、官軍ヲ砲撃ス、官軍ノ之ニ當ル者、第四大隊ノ一中隊ノミ、相戰フ二時間、賊鋒甚ダ銳シ、官軍又支エザラントス、既ニシ

中原 肥前 三根郡

テ諸口ノ軍、賊兵ヲ破ツテ至ル、因テ其兵ヲ併セ、
遂ニ大ニ賊兵ヲ敗ル、賊兵皆兵器ヲ棄テ走ル、尾
撃一里、小銃彈藥ヲ獲テ還ル、是日、朝夕兩次、皆勝
タルヲ以テ、軍威大ニ振フ、此夜、中原驛ニ露營ヲ
張リ、哨兵ヲ要地ニ分配ス、此時前山黨來リ合ス、
其兵ヲ諸隊ニ分配シテ嚮導トナス、夜半、賊兵來
テ露營ヲ襲フ、此日、熊本ノ軍、右半大隊ハ、午前六
時ヲ以テ、宮路渡ヲ踰エ、筑後河ニ沿テ下ル、路ニ
ノ遙ニ朝日山ノ砲聲ヲ聞キ、衆大ニ奮ヒ、直ニ千
栗及ヒ豆津ニ進ム、賊、要害ニ據テ戰線ヲ張ル、我

宮路渡 筑後 三根郡

瀬下 筑後 三根郡

苔野 肥前 三根郡
西尾村 同上

軍即チ撤兵ヲ以テ接戦ス、左半大隊モ亦瀬ノ下
ヨリ河ヲ渡リ、右半大隊ト合シ、カヲ戮セテ奮戦
一時間ニノ豆津ノ賊ヲ追フ、山代大尉等、尾撃シ
テ苔野ニ至ル、賊ヲ見ズ、乃チ退テ本隊ニ合セン
トス、日暮レ路ニ迷ヒ、遂ニ西尾村ニ至リ、石川中
尉ノ兵ニ會ス、行々賊兵ヲ破リ、將ニ苔野ニ出シ
トス、途ニ第四大隊ノ一分隊ニ遇ヒ、共ニ進テ苔
野ニ至ルキハ、其本隊ノ中原驛ニ在ルヲ聞キ、來
リ合ス、山代石川兩尉ハ留テ苔野ニ陣ス、而シテ
其熊本本隊ハ、賊ヲ豆津ニ破ルニ當リ、將ニ兵ヲ

江見 肥前
三根郡

六田 同上

住吉 同上

收ントス、山代石川兩尉率ル所ノ兵、皆在ラザル
ヲ以テ、復タ兵ヲ進メテ、江見六田ニ至ル、時ニ賊
軍六田ニアリ、哨兵ヲ江見ニ出セリ、午後四時、小
島大尉一小隊ヲ以テ、之ヲ撃テ克タズ、是時、前山
隊既ニ住吉ヨリ江見ニ至リ、熊本ノ軍ニ合シ、全
軍齊シク進テ、六田村ノ賊ヲ撃ツ、賊伴リ退ク、我
軍一中隊ヲ以テ、六田ヲ守リ、全隊ハ江見ニ次ス、
賊軍突然大舉、來テ江見ノ軍ヲ撃ツ、積蒿ニ竄レ、
樹林ニ伏シ、三面齊シク、大小銃ヲ以テ亂射ス、我
兵遂ニ敗績、筑後河ヲ渡テ、住吉ニ退ク、賊追テ河

寒水 同上

ニ及ブ、我兵夜ル軍ヲ千粟ニ移ス、前山隊ヲシテ
殿タラシム、此地、中原驛ヲ距ル一里餘、兩道ノ
官軍、未ダ合スル能ハズ、永山中尉、本田少尉、以下
死スル者十二人、伍長、田上登以下、大傷セラレ、此
日、中村中佐、東京ニ赴クノ途上ヨリ歸テ、千粟ニ
至ル、東艦雲揚艦、博多ニ入ル、大坂丸、長崎ニ入ル、
○二十三日、第十大隊ヲ分チ、中隊ヲ以テ前軍ト
ナシ、第三砲隊之ニ次ギ、第四大隊ヲ以テ後軍ト
ナシ、前山隊ヲノ留守セシメ、午前七時、本道ノ軍
中原驛ヲ出ツ、第十大隊、本道ヨリ進ミ、寒水村ニ

安良河 肥前 孫郡

北山 肥筑 界

至ル、賊伏ヲ設ケ、左右ヨリ夾撃ス、官軍ノ前隊、安良河ヲ涉テ進ム、賊兵、村口寒水ノ要地ニ據リ、民舎櫃田ニ出沒シ、以テ大小砲ヲ發シテ邀戰ス、我が先鋒、散兵ヲ布キ、大砲ヲ發シ、頻ニ賊壘ヲ狙撃ス、壘固クシテ拔ケズ、賊兵、我が右翼ニ迫リ、樹木ヲ蔽フテ亦狙撃ス、彈丸雨注シ、官軍頗ル苦戰、時ヲ移ス、賊勢愈々熾シニ、左右翼ヲ張テ圍ミ撃ツ、我軍殆ンド敗レントス、野津少將自ラ彈丸ノ下ニ立チ、衆ヲ勵マシ、奮戰ス、時ニ後軍ノ第四大隊、北山ノ別路ニ沿テ進撃シ、賊ノ別軍ヲ敗リテ進

小隈津 肥前 孫郡

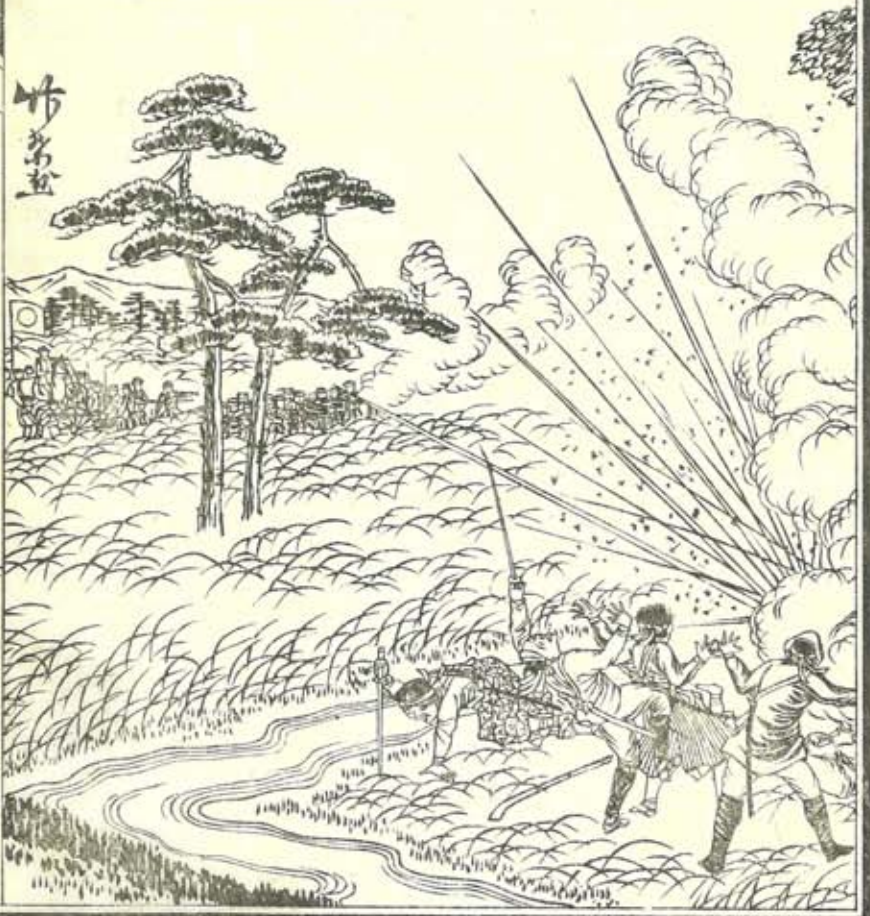
神崎 同上

吉田 同上

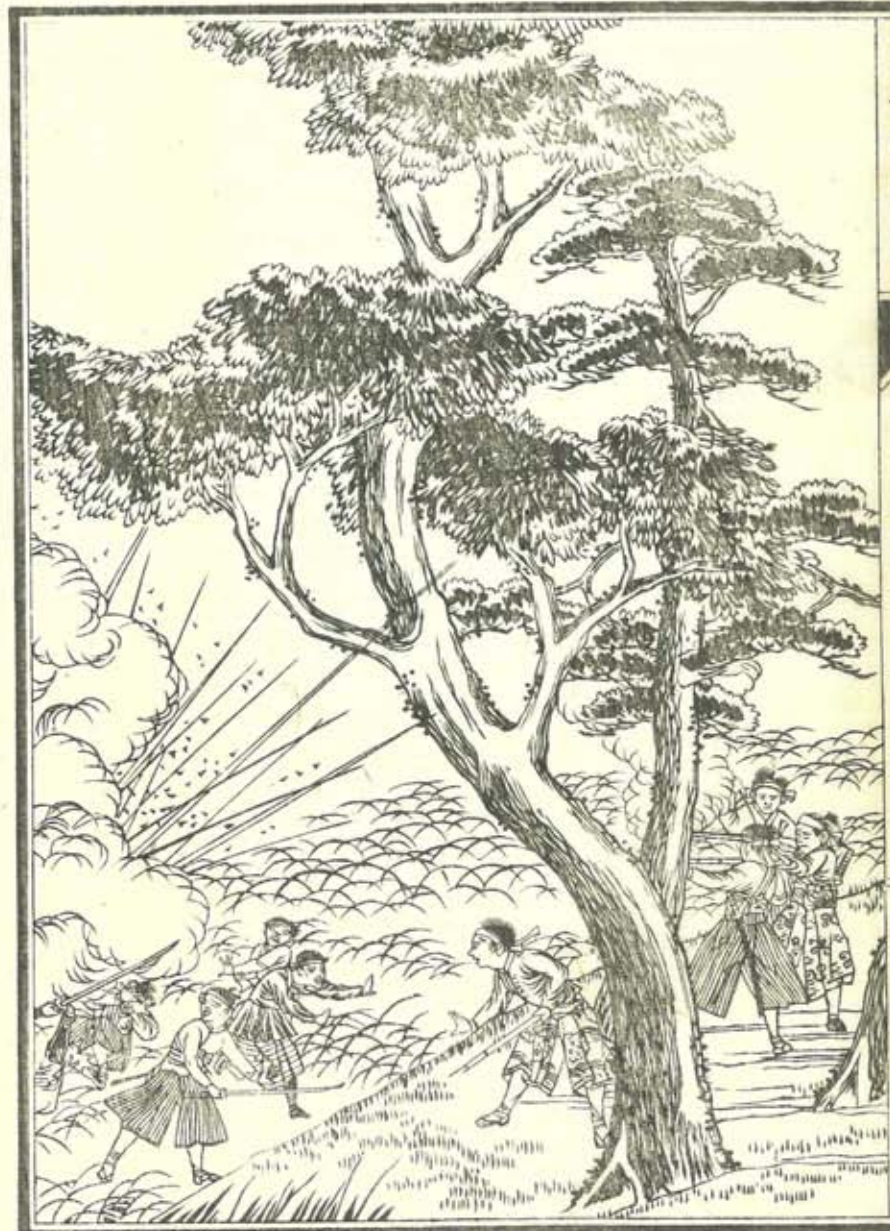
里村 同上

ム、寒水ノ苦戰ヲ聞キ、迂回シテ賊ノ背後ヲ衝キ、稀突相逼ル、賊相顧ミテ驚潰ス、其第四大隊ノ一小隊、又別路ヨリ進ム者、賊ニ小隈津村ニ要撃セラレ、敗シテ寒水村ニ走ル、然レモ官軍既ニ本道ノ戰ヒニ克ツヲ以テ、又議シテ兵ノ向フ處ヲ部署ス、第十大隊ノ二中隊ヲシテ、本道ヨリ進マシメ、其中隊ヲ分チテ、道ヲ左ニ取ラシム、第四大隊ノ一中隊ヲ右シテ、北山ニ沿テ進マレメ、全軍鞆諫シテ、神崎ニ進撃ス、途ニシテ吉田村ニ至ル、賊軍、田手村ノ要衝ニ據リ、三方ヨリ齊シク銃砲

官軍吉田
 村ニ大砲ヲ
 以テ賊軍ヲ
 撃破ル圖



竹
 多
 五



ヲ發ス、我が前軍一中隊之ニ當ル、此野遼澗樹木
叢植ス、賊地理ニ熟スルヲ以テ、樹間田隴ニ出沒
シテ、善ク戰フ、我兵乃チ地上ニ偃シ、溝渠ニ伏メ、
之ニ應ズ、勝敗未ク決セズ此ニ於テ、砲隊ニ令シ
テ、我銃隊ヲ隔テ、大砲ヲ以テ左右ヨリ亂射セシ
ム、砲丸銃隊ノ頭上ヲ過テ、賊兵ノ正面ニ落ツ、賊
頗ル披靡ス、既ニノ左右ノ二中隊、横サマニ賊ノ
兩翼ヲ擊ツ、賊亦應砲ス、兩軍ノ砲聲、霹靂ノ如ク、
燄烟地ヲ捲キ、人馬暗中ニ馳突ス、時ニ一隊兵、田
手川ヲ渡リ、急ニ賊ノ後背ヲ衝ク、賊四面兵ヲ受

テ支ル能ハズ、官軍益々奮戰、遂ニ又之ヲ敗ル、賊
兵火ヲ田手村ニ縱テ、神崎ニ逃ル、第十大隊直ニ
進テ神崎ヲ攻ム、賊又神崎ヲ燒キ、境原ニ走ル、天
已ニ暮タルヲ以テ、我軍退テ苔野ニ陣ス、此戰ヤ、
阿部兒玉大尉以下、死傷頗ル多シ、然レモ我ガス
ナイドル銃彈丸、遠處ニ達シ、多ク賊兵ヲ殪ス、賊
ノ隊長鍋島市之允戰死シ、賊勢大ニ阻ム、此日熊
本ノ兵ハ、陣ヲ移シテ苔野ニ來リ合ス、前山隊ハ
中原ヨリ、目達原ニ轉陣ス、同日、山田少將、小笠原
大尉ノ一隊ヲシテ、三瀨嶺ニ出張セシム、賊兵、山

中ニ在リ、互ニ砲戦ス、暫時ニシテ止ム、博多ノ本
營ヲ、轟木驛ニ移ス、大久保内務卿、進テ小隈津ニ
至リ、戦地ヲ閱ス、此夜、江藤事ノ就ラザルヲ知リ、
中嶋鼎藏、山中一郎、香月敬五郎等ヲ携ヘ、暗ニ乘
ジ、窈カニ小船ニ掉シテ遁ル、初メ我軍ノ田代口
ヨリ進ムヤ、江藤、神崎驛ニ赴キ、諸軍ヲ指揮セン
トス、島義勇等ニ謂テ曰ク、我レ成算アリ、敵ヲ制
スル易々耳、公等其レ高枕セヨト、意色甚ダ驕リ、
馬ニ鞭テ行ク、既ニシテ其兵屢々振ハス、江藤其
支フメカラザルヲ知リ、走テ佐賀ニ歸リ、島等ニ

告テ曰ク、吾レ鹿見島ニ至リ、西郷氏ニ投ジ、以テ
營救ヲ請ハン、衆疑テ聽カズ、至是獨リ先ヅ脱走
ス、○廿四日、連戦困頓スルヲ以テ、休戦ス、因テ一
小隊ヲ出シ、斥候トシテ、神崎近傍ヲ巡邏ス、是日、
大久保内務卿、苔野ニ來リ、酒肴ヲ士卒ニ賜フ、夜、
肥前武雄人旗島某來リ、海軍中尉志岐某ニ面シ、
一書ヲ出ダス、則チ島義勇ヨリ、武雄公孫ヘ遣ル
密書ナリ、其書ニ曰ク、之ヲ道路ニ聞ク、薩長ノ兵、
長崎ヨリ進ムト、事誠ニ真ナレバ、是我ガ肥前ヲ
庇フナリ、若シ我ヲ撃ツノ色アラバ、必ス薩兵ニ

アラス、蓋シ大村及ビ其餘ノ僞兵ニシテ、虚勢ヲ
張り、以テ我軍情ヲ沮マントスル者、仰ギ冀クハ
其實否ヲ審カニシ、昨依頼セシ五小隊ヲ出シ、急
ニ我軍ヲ援ケンヲ乞フ、然レモ薩長ノ兵ニシ
テ、或ハ我軍ヲ撃ツノ勢アレバ、策ノ復タ施スベ
キナシ、其レ之ヲ察セヨト、衆之ヲ視テ、益々島等
ノ情實ヲ知り、將ニ佐賀ニ進マントス、同日福岡
ノ軍ハ、昨日ヨリ三瀬嶺ニ賊徒出沒スト雖モ、本
營軍士ニ乏キヲ以テ、別ニ福岡縣士族隊ヲ編制
シ、大庭弘、越智彦四郎、村上某等ヲシテ、兵ヲ率キ、

三道ヨリ進ミ、三瀬ノ賊ヲ撃タシム、大庭等、嶺ノ
半腹ニ至リ、臼砲ヲ放チ挑戰ス、賊嶺上ヨリ瞰射
ス、越智ガ兵、山半ヲ轉ジ、横撃シテ賊ノ胸壁ヲ取
ル、賊別軍ヲ出シテ、官軍ノ背ニ出デ砲撃ス、山上
ノ賊モ亦返戦ス、官軍敗レテ金武嶺ヲ走り保ツ、
使ヲ福岡ニ馳セ、援兵ヲ請フ、山田少將、軍氣ヲ勵
マサント欲シ、陽ニ怒テ曰ク、兵ノ潰散、子等自ラ
取レリ、盍ゾ奮戦シテ前耻ヲ清メザル、使者怖レ
テ返ル、尋デ二小隊ヲ出シテ之ヲ援ク、○二十五
日、三大隊皆苔野ニ集マリ、休戦ス、同日、福岡ノ軍

内野 肥前 早良郡

飯塚村 同上

ハ、臺兵一中隊、内野ニ軍シ、福岡貫屬隊ハ、飯塚村ニアリ、斥兵ヲ出シテ探偵ス、○廿六日、亦休戦、斥候ヲ所々ニ出シ、賊ノ動靜ヲ偵ヒ、明日ヲ以テ進撃セント決シ、諸軍ヲ部署ス、時ニ一卒ヲ捕ヘ、之ヲ鞠問ス、曰ク北山ノ隊長、朝倉尚武ノ密使ナリ、前ニ弘道館ニ至リ、書ヲ西耕藏、野田辰藏ニ致タシ、今其答書ヲ得テ歸ルト、因テ其書ヲ奪ヒ、悉ク敵ノ密議ヲ知り、又其陣營配列等ヲ問フ、曰兵大半、佐賀城下ニ退キ、城内及ビ弘道館、其他北山ニ屯集シ、明日將ニ大舉シテ、來襲セント、專ラ準備

脊振山 肥筑 界

久保山 同上

板屋越 筑前 早良郡

脇山 同上

ヲ爲ス、書中蓋シ事ヲ約スルナラン、同日、福岡ノ軍、一中隊ヲ分チ、脊振山、久保山、板屋越ノ三道ニ向ハシメ、本隊ハ脇山ニアリ、以テ三道ノ應援ニ供ス、部署已ニ定マリ、黎明三道并ビ進ム、賊、脊振山口ヲ扼守ス、官軍砲撃數刻、遂ニ賊ヲ走ラシテ、脊振山ヲ取ル、久保山、板屋越、二道ノ軍ハ、山路峻峻、行軍甚ダ難キヲ以テ、要地ニ頓陣シ、斥兵ヲ出シテ、賊情ヲ探ラシメ、而ノ脇山ノ本隊ハ、進テ椎原ニ軍ス、○二十七日、拂曉、全軍、苔野ヲ發シ、神崎ニ至リ、一大隊及ビ砲兵ヲ以テ、本道ヨリ姉村ニ

椎原 同上

姉村 肥前 神埼郡

朝村 肥前
神埼郡

城原 同上

川久保 肥前
佐賀郡

向ヒ、一大隊ヲ分ツテ、朝日村ヨリ城原山ヲ過テ、
川久保ニ出シム、是ヲ右翼兵トス、又熊本一大隊、
及ビ日田一小隊ヲ以テ、蓮池口ニ進入セシム、部
署既ニ畢リ、各隊皆發ス、賊既ニ神崎以南ノ諸橋
ヲ撤去ス、本道ノ軍、壞橋ヲ修シ、進テ姉村ニ至リ、
兵ヲ分ツテ、賊情ヲ探ル、賊兵俄カニ樹林ニ翳シ、
形便ニ據テ亂射ス、官軍馳突、砲銃齊ク發ス、黒烟
黄塵相化シテ混々、殆ンド人面ヲ辨ゼザルニ至
ル、此地、原野平曠ナレド、處々溝渠縱横シ、林藪斷
續シ、我軍、客兵ヲ以テ地理ニ熟セズ、頗ル進退ニ

境原 肥前
神埼郡

艱ハ、交撃數時、殺傷過當ス、我軍殆ンド敗レント
ス、會々砲兵發スル所ノ霰彈數發、賊堡ニ命中ス、
賊兵辟易、我軍之ヲ視テ、吶喊シテ進撃ス、賊遂ニ
奔潰ス、我軍遂ニ境原ヲ取ル、日没ニ及テ、賊兵反
戦ス、勢ヒ甚ダ剽悍、我軍頗ル苦戦ス、先是熊本隊
兵、二軍ニ分チ、一軍ハ境原ノ賊ヲ横撃シテ、本道
ノ軍ヲ援ケ、一軍ハ進テ蓮池ニ至リ、回リテ賊ノ
背面ヲ衝ントス、蓮池ノ賊軍迎ヘ戦フ、一鼓シテ
之ヲ走ラシ、火ヲ放チテ、境原ノ聲援ヲナス、使ヲ
本道ノ軍ニ遣リ、蓮池既ニ抜クヲ報ジ、軍ヲ進ル

ヲ促ス、其使還リ報ズ、賊軍境原ニ返撃シ、勢大ニ
猛烈ナリト、是ニ於テ、軍ヲ返シテ、賊ノ背後ヲ擊
ツ、賊軍大ニ潰走ス時ニ夜黑ヲ以テ、窮追セズ、右
翼ノ兵又來リ會ス、初ノ右翼兵ハ、進テ朝日村ヲ
過ギ、賊兵ニ城原山ノ中間ニ遇フ、官軍分ツテ三
面ヨリ合撃ス、賊走リテ林藪中ヨリ射撃ス、我が
分隊迂回シテ背後ヲ衝テ、之ヲ敗リ、尾撃スル
數里、會々日暮ル、地勢善カラザルヲ以テ、川久保
ニ退軍シ、夜ニ入り、境原ノ軍、苦戦スト聞キ、來リ
援フ、賊既ニ散ス驛中既ニ兵燹ニ罹ルヲ以テ、全

軍露營ヲ張ル、風霜肌ニ粟ス、役中此戦ヲ以テ、最
トナス、此日境原ノ賊將ハ、朝倉尚武ナリ、尚武初
メ兵數百ヲ率キ、佐賀福岡ノ間道ヲ支へ、大坂ノ
臺兵及ヒ福岡貫屬隊ト交戦數日、大ニ官軍ニ抗
ス、既ニノ轟木驛ノ兵敗ルヲ以テ、尚武乃チ勢ヲ
失ヒ、此日亦大敗スルヲ以テ、賊勢是ヨリ衰フ、然
レモ尚武ノ兵、屈強、官軍頗ル攻撃ニ苦レムト云、
同日、推原ノ一中隊ハ、夜半傳發シテ、久保山嶺ニ
進ミ、山上、賊アルヲ謀知シ、小隊ヲ分ツテ、左右翼
ヲ張リ、三面夾撃ス、賊兵遂ニ潰ユ、官軍嶺上ニ達

スル片ハ、旭旗旭光ニ相映スト云フ、脊振山ノ半
隊ハ、三線路ヲ取り、山間ノ賊兵ヲ敗リ、進テ久保
山ニ來リ合ス、金武嶺ノ福岡隊黎明發シテ復ク
三瀬嶺ニ進撃ス、苦戰盡日、未ダ賊ヲ敗ル能ハズ、
山田少將遣ル所ノ二小隊、夜ニ入リテ來援ス、合
ノ賊虚ヲ衝キ、之ヲ走ラス、是日、天皇、總督宮ニ授
ルニ、近衛第二聯隊ヲ以テス、北海九夜半博多港
ニ入ル、井田少將、隊兵ヲ率テ至ル、○二十八日、黎
明、境原ノ軍門ヲ指シ、白旗ヲ標シ來ル者アリ、衆
目シテ降伏ノ使トナス、果シテ賊木原隆忠ナル

者、兩黨總代トシテ、降伏ヲ請フ、之ヲ本營ニ召シ、
渡邊少佐、東郷大尉之ニ接ス、降書頗ル其體ヲ失
スルヲ以テ之ヲ卻ケ、其天兵ニ抗スルヲ責メ且
曰ク、速ニ悔悟謝罪ノ實ヲ徵セヨ、然ラザレバ燎
原ノ火止メ難シト、隆忠ヲ還ス、隆忠頗リニ哀ヲ
乞フ、乃チ令ノ午後三時ヲ期シ、兵器ヲ收メ降伏
セシム、尋テ軍ヲ進メテ蓮池ニ至ル、防備極テ嚴
ナリ、已ニシテ隆忠又副島義高ト共ニ來リ、再ビ
謝罪狀ヲ出ス、書辭尚不遜、因テ之ヲ責ム、義高書
体ヲ改ルノ教ヲ乞フ、降書他人ノ意ヲ假リ、曲從

スルノ理ナキヲ以テ許サズ、隆忠ヲ拘シ、義高ヲ
還ス、既ニ夜、義高使ヲ馳セ、書ヲ出ス、書中王師ニ
抗シ、謝罪スルノ字、本意ニ背クヲ以テ書スル能
ハズ、願クハ行臺ニ至リ、大久保參議ニ謁シ、心腹
ヲ吐露シ哀ヲ請ハント、野津少將曰ク、軍門ノ外
降處ナシト、又聽カズ、明日午前十時ヲ期シ、其實
ヲ呈セシム、而シテ將校ヲ會シ、豫メ進討ノ策ヲ
議ス、既ニシテ大久保參議、本營ニ至ル、此日、海軍
遠武秘書官等、海兵及ビ長崎貫屬隊ヲ率キ、大町
驛ヲ發シテ進ム、沿道ノ賊、降ヲ乞フ者、陸續相踵

大町

肥前
野島郡

牛津

肥前
志摩郡

牛津

肥前
佐嘉郡

久保田

同上

ク、志岐中尉及ビ、叢田某等ヲシテ、斥候兵ヲ率キ、
先ヅ進マシム、本隊之ニ續ギ、牛津驛ニ至ル、時ニ
賊兵、急ニ夫卒百餘人ヲ起シ、牛津川ノ土橋ヲ毀
テ、以テ海兵ノ進路ヲ遮ギラントス、叢田等即チ
斥兵ニ令シ、齊シク銃丸ヲ發ス、賊兵辟易、皆走ル、
全軍因テ土橋ヲ越エ、久保田驛ニ到ル、時ニ賊ノ
隊長村山長榮、白旗ヲ携サヘ、軍門ニ來ル、遠武秘
書官之ニ接ス、村山曰ク、事皆鎮臺兵入城シ、情實
齟齬スルヨリ起リ、圖ラズ輕舉此ニ至ル、罪ノ容
ルベキナシ、然レモ素ヨリ王師ニ抗スルノ意ナ



津土川



賊徒牛津
川ノ土橋
ヲ毀ツノ
圖

加瀬 肥前 佐嘉郡

シ、故ニ全隊ヘ説諭シ、以テ降伏ノ實ヲ顯ハサン
トス、願クハ姑ラク休戦セヨト、書ヲ出ダシ哀ヲ
請フ、遠武秘書官、其書ヲ卻ケテ曰ク、先ツ降ヲ乞
フニ非レバ、休戦シガタシ、長英因テ衆議ヲ決シ、
午後六時ヲ期シテ、至ルヲ約ス、海兵遂ニ加瀬驛
ニ進ミ、妙福寺ニ屯ス、時漸ク期ヲ過テ、村山謝罪
ノ書至ラズ、乃進テ佐賀城下ニ至ル、賊兵狼狽潰
散、復々戦フ能ハズ、遠武秘書官、但馬大尉志岐中
尉等、海兵二分隊ヲ率キ、佐賀城ニ入ル、時ニ暴雨
灑グガ如シ、人或ハ之ヲ洗兵ノ雨ト云フ、同日早

水無嶺 筑前 豊前郡

矢筈嶺 筑前 早良郡
鬼鼻 同上

晨、廣島鎮臺兵、福岡城ニ入ル、井田少將、尉官數名
ヲ率テ、三瀬口ニ至ル、其中隊モ亦尋テ三瀬口
ニ進ム、高島少佐等、椎原口ニ向ヒ、小笠原大尉、應
援ヲナス、井田少將、馳テ三瀬嶺ニ至リ、諸隊ヲ布
置シテ、各要衝ニ備フ、福岡貫屬隊、三小隊ヲ以テ、
三瀬嶺ヲ守リ、又三小隊ヲ以テ、水無嶺ヲ守ル、於
是令ヲ傳ヘテ、明晨三瀬村ノ賊ヲ討タシム、是夜
風雨甚シク、兵士露立シ、雨濕肌ニ透ル、椎原口ノ
高嶋少佐等、進テ久保山頂ニ至ル、此時矢筈嶺、鬼
ヶ鼻、背振山等ノ險隘、悉ク我軍ノ有トナル、而メ

賊猶久保山村ニ屯スルノ報アリ、小笠原大尉之ヲ擊ツ、至レハ賊既ニ遁レ去ル、午前十時、高島少佐、推原村ニ至ル、風雨晦冥、我軍地理ニ熟セズ、因テ此ニ次ス、○三月一日、期ヲ過ギテ義高等ノ報尚ホ至ラス、即チ全軍ヲ分チ、本道及ビ蓮池ヨリ、兩道并ビ進ム、兩道俱ニ隻賊ナシ、陸軍少將野津鎮雄、鎮臺兵ヲ率キ入城ス、前山精一郎等從テ入ル、海軍兵因テ城ヲ出テ、宗龍寺ニ屯ス、大久保參議、山田少將、河野權大判事入城ス、賊徒暴舉ノ始メヨリ、此ニ至テ、僅ニ十四日、而メ官軍死傷、合シ

テ三百五十八人アリ、賊徒ノ死傷モ亦三百二十三人アリト云フ、西島少尉等囚レテ城中ニ在ル者、死セザルヲ得タリ、此日佐賀縣令シテ賊徒平定、人民堵ニ安ンズベキヲ以テス、而シテ賊魁江藤島以下、逃亡シテ未ダ其所在ヲ知ラズ、大坂以西ノ諸縣ニ令シ、嚴ク搜索セシム、同日拂曉、雨ヲ侵レテ井田少將、二中隊ヲ率キ、三瀬村ニ至ル、賊隻影ナシ、田中中佐等、水無嶺ヨリ來リ合ス、高島少佐、推原ヲ發シ、久保山ニ進ム、此山向背ヲ以テ、肥筑ヲ界シ、獸道鳥跡頗ル險絶、雨ヲ衝テ至レバ、

腹卷肥前

川上村肥前

復々賊ナシ、進デ腹卷村ニ軍ス。是日、谷大佐、大坂
 臺兵ヲ率テ、福岡ニ至ル。同日、總督宮、及山縣伊東
 兩參軍、近衛二聯隊兵ヲ率テ、龍驤艦ニ乗ジテ、品
 川海ヲ發ス。此日、江藤等遁レテ、海路ヨリ薩摩ニ
 入り、西郷隆盛ニ面シ、情實ヲ告ゲ、以テ事ヲ謀ル。
 事諧ハズ、或ハ云フ、隆盛、桐野利秋ヲシテ、論破シ
 テ之ヲ卻クト。○二日、高島少佐、川久保村ニ至リ、
 小笠原大尉ニ會シ、佐賀既ニ平定スルヲ聞キ、福
 岡隊ヲ歸ラシメ、自ラ進テ佐賀ニ入ル。井田少將、
 川上村ニ次ス。是日、谷大佐ニ令シテ、師ヲ大坂ニ

班セシム。○三日、井田少將、川上村ヨリ、谷少將、熊
 本ヨリ、俱ニ佐賀ニ至ル。午後、井田少將、廣嶋臺兵
 ヲ率テ、廣島ニ歸ル。尋テ福岡貫屬隊ヲ解カシム。
 此日、征討總督、進テ兵庫ニ至ル。將ニ佐賀ニ向ハ
 ントス。賊兵降伏ノ報至ル。天皇由テ班師ノ命ヲ
 下シ、率ル所ノ近衛兵二大隊ハ、參軍山縣有朋ヲ
 シテ、率テ歸京セシメ、總督宮ヲシテ、獨リ佐賀ニ
 向ハシメ、以テ軍事ヲメ、條緒ニ就カシム。是日、佐
 賀縣ニ令ス、平民賊ノ脅從ニ係ル者、一切其罪ヲ
 宥ムト、而シテ人ヲ鹿兒嶋白川兩縣、及ビ南海道

等ニ分派シ、賊跡ヲ搜索セシム、島義勇、副島義高
 等、竊ニ住ノ江港ヨリ航シテ、鹿兒嶋ニ脱走ス、先
 是島等、佐賀城ニアリ、日ニ降伏ノ事ヲ議シテ、計
 ラ得ス、島ノ弟副島義高曰ク、聞ク從二位嶋津公、
 適ニ鹿兒島縣ニアリト、公ニ依リ罪ヲ謝スルニ
 如カズ、島違依シテ決セズ、副島等遂ニ佐賀ヲ發
 ス、既ニシテ島ノ獨リ留ルヲ憂ヒ、途ヨリ使ヲ馳
 セ、強テ之ヲ迎ヘ、共ニ走ルト云フ、○四日、野津少
 將、二大隊及ヒ砲隊ヲ率テ、福岡ニ歸ル、熊本一大
 隊ヲ留メテ、佐賀ヲ衛ラシム、○五日、先是軍艦ヲ

以テ、肥薩沿海ヲ巡リ、賊ノ奪取スル所ノ舞鶴船
 ヲ搜索ス、是日、薩ノ阿久根港ニ於テ、之ヲ獲タリ、
 然レモ賊已ニ逸去ノ、船中人ナシ、是日、野津少將
 征討總督參謀長トナル、同日、嶋副島等俱ニ鹿兒
 島縣ニ入ル、○六日、征討總督、神戸港ヲ發ス、○八
 日、高島侍從番長、勅ヲ奉メ、佐賀ニ至リ、大久保參
 議以下、及ビ兵隊ニ酒饌ヲ賜ヒ、軍務ヲ慰ス、是日、
 林海軍大佐以下、海軍兵ヲ率テ、東京ニ還ル、○九
 日、龍驤艦博多ニ達シ、總督官、福岡城ニ入ル、○十
 日、總督、福岡ニアリテ、瘡痍ヲ問ヒ、士官兵卒ニ酒

饌ヲ賜フ、先是、鹿兒島縣權令大山綱良、島義勇、副
島義高、平田重藏、朝倉尚武、福地常影、馬渡雄左衛
門、成松珍平、中島彦助、鍋島克一、石隈吉輔、高柳與
平、石井堅次、牟田口孝敬等ヲ捕獲シ、此日ヲ以テ、
佐賀縣廳ニ押送ス、初メ亂ノ起ルヤ、内閣顧問嶋
津久光、鹿兒島縣ノ形勢ヲ顧慮シ、豫メ鎮撫セン
ト請テ、縣地ニ行ク、此月八日、園田某ヲシテ、大久
保參議ニ就キ、告テ曰ク、去月廿七日、賊徒中川義
純、重松基吉、柴田浩平ナル者、來リ請テ曰ク、小人
等、東京ニ至リ、罪ヲ闕下ニ謝セント欲ス、顧フニ

閣下ニ依ラズンバ、之ヲ遂ル能ハズ、冀クハ賢明
之ヲ寬容セヨト、哀訴如此、既ニシテ脫徒捕縛ノ
令至ル、故ニ吏胥ヲシテ、之ヲ監護セシメ、現ニ鹿
兒島縣ニアリ、今久光將ニ三人ヲ携ヘ、歸京セン
ト欲ス、如何ン、參議曰ク、從二位公何ゾ此言ヲ爲
ス、卿返テ報セヨ、彼三人ハ罪ノ許スベキナレ、速
ニ之ヲ岸根大檢事ニ交付セヨト、因テ手書ヲ園
田某ニ付シ、大山權令ニ致シ、益々其餘ノ脫徒ヲ
捕ヘシム、○十二日、總督宮、佐賀ニ赴ク、○十三日、
野津少將、兵ヲ率テ熊本ニ赴ク、○十四日、總督宮、

佐賀ニ入ル、大久保參議、一切軍務ヲ奉致ス、尋テ
總督戰地ヲ巡視ス、○十五日、江藤竊ニ航シテ、愛
媛縣下宇和島ニ至ル、先是鹿見島ノ議協ハズ、去
テ高知縣ニ赴キ、故友ニ謀リ、上京ノ策ヲ爲サン
トス、官崎縣下歛肥ニ至リ、小倉處平ナル者ニ依
リ、江口十郎船田次郎ヲ從へ、竊ニ乘船シテ、戸ノ
浦ヲ出ヅ、尋テ香月敬五郎、中嶋鼎藏、横山萬里、中
島又吉、山中一郎、横山彌助、亦乘船シテ去ル、於是
江藤等潛行シテ、高知ニ達セントス、○十七日、總
督官ヨリ、前山精一郎ニ酒肴料ヲ賜フ、其大義ヲ

明カニシ、軍務ニ勞スルヲ慰ス、○二十二日、總督
官熊本ニ赴ク、佐賀ヲ發シテ、三潯縣ニ至ル、○廿
四日、江藤等、高知縣下ニ至ル、此日、同縣下ニ於テ、
香月敬五郎、中嶋鼎藏、横山萬里、中島又吉、山中一
郎、横山彌助等ヲ捕フ、○廿七日、總督官熊本ニ至
ル、○廿九日、江藤、高知縣下、甲ノ浦ニ於テ、縛ニ就
ク、香月等ト俱ニ之ヲ佐賀縣ニ押送ス、○四月一
日、總督官將校以下、征討ニ關スル者ニ、酒饌料ヲ
賜フ、○四日、東伏見官、征討總督ヲ免ゼラレ、更、賊徒
處刑ヲ委任セララル、大久保參議、其指令ヲ受テ、罪

ヲ處分ス、野津少將、參謀長ヲ免ゼラル、○九日、脱
賊ノ縛ニ就ク者、皆佐賀ニ押送シ來ル、河野權大
判事、斷獄ヲ掌リ、處刑擬律シテ、參議ニ呈ス、參議
決ヲ親王ニ取ル、○十三日、佐賀城中ニ刑場ヲ設
ケ、岩村權令、野村權參事等、之ニ蒞ミ、歩兵一小隊
及ヒ巡查數人ヲ配列セシメ、江藤島兩人ヲ梟首
ニ處シ、朝倉尚武、香月敬五郎、山中一郎、西義質、中
嶋鼎藏、副島義高、重松基吉、村山長榮、福地常彰、山
田平藏、中川義純十一人ヲ斬ニ處シ、其他事ニ與
シテ司令官トナル士族、百三十六人ヲ、京都大坂

兩府及ビ滋賀、廣島、和歌山、名東、堺、飾磨、岡山七縣
ヘ配シ、年限ヲ定メ、各懲役ニ就カシメ、其餘脅從
ノ者、一萬六百五十九人、皆之ヲ免ス、遠近皆屏息
ス、此役、政府費ス所ノ財貨、凡ソ百萬圓餘、兵ヲ用
ル五千三百五十六名、小銃彈丸二十六萬八千餘
發、山砲彈四百五發ニ及ブト云フ、東伏見親王、大
久保參議、將校以下、尋デ歸京ス、賊徒平定ヲ闕下
ニ復命シテ曰ク、事ヲ九州ニ幹シテ歸ルト、天皇
之ヲ嘉賞シ、海内四民之ヲ謳歌ス、佐賀縣下ノ亂
ヤ、近傍ノ諸縣士事ヲ共ニセント欲スル者多シ、

而シテ鎮臺兵ノ佐賀城ニ敗ルヲ聞キ、益々志ヲ
動カシ、既ニ其端ヲ啓カントス、熊本臺兵、亦私カ
ニ之ニ投ゼントスル者アリ、加ルニ臺兵僅カニ
一大隊半ノミ、攻守勢ヒヲ分テ難キヲ以テ、其將
官、苦慮啻ニ百端ノミナラズ、谷少將ノ持重ヲ以
テ、猶ホ機會後ル、時ハ、奈何トモ爲ス可ラザル
ノ勢ヒアリ、幸ヒニ電信一閃、早ク軍艦ノ臺兵ヲ
送リテ、博多港ニ駛入スルアリ、新ニ福岡城ニ本
營ヲ置キ、道ヲ分テ、天兵奔湧シテ進ム、此ヲ以テ
大ニ九州地方ヲ壓伏ス、是電氣ノ信報速カニシ

テ、出兵ノ咄嗟相辨スルヲ以テナリ、若シ夫レ出
兵ニ間三日アラシメバ、凶焰將ニ九州全國ニ洎
ビ、玉石俱ニ焚クモ、豫メ圖ル可ラズト云フ

前原一誠像



熊本萩戰記

明治九年十月二十四日、午後十一時、熊本縣俄カ

ニ暴徒アリ、突然起リテ、鎮臺兵營ヲ燒キ、士官兵

卒ヲ亂斫シ、陸軍少將種田政明、大佐高柳邦秀等

ヲ襲殺ス、同時又縣令安岡時亮ヲ傷ケ、參事小關

敬直等ヲ殺ス、其他死傷アリ、既ニシテ、兵隊裝ヲ

爲スニ及バズ、返戰シテ討テ、賊ヲ破ル、賊傷シテ

自刃スルアリ、又斬獲セラル、アリ、夜明ルニ及

テ鎮靖ス、初メ舊藩士族中ノ頑固ナル者、黨ヲ立

テ、神風連ト稱ヘ、敬神黨ト呼ブ者アリ、上野謙吾、

愛敬左司馬、加陽榮太、大野鐵平等ヲ巨魁トス、常
 ニ世態ノ洋風ニ遷移スルヲ憤リ、脱刀祿券ノ令
 出テ、縣廳散髪ヲ令スルニ及テ、益奮激シ、神國ノ
 蠻夷ニ化スルハ、奸吏ノ洋夷ニ佞スルヨリ生ズ
 ト賜言シ、遂ニ藤崎社前ニ嘯集シ、頗ル暴舉ノ萌
 ヲ顯セリ、先是山口縣士族、故參議陸軍大輔前原
 一誠冠ヲ懸テ縣下ニ退キレヨリ、頗ル機ヲ察テ、
 事ヲ舉ルノ意アリ、曾テ熊本秋月等ノ不平士族
 ニ交リ、舊會津藩士、及ビ越後等ニ同志ノ士ヲ結
 ビ、東西一舉ニ、事ヲ起サントス、熊本縣祿券ノ令

ヲ布クニ及ビ、士族中頗ル隱謀ノ兆ヲ促シ、前原
 ト俱ニ事ヲ舉ントス、此ニ於テ、處々口耳相屬ス、
 縣官大ニ心ヲ勞シ、陰ニ鎮靖ヲ圖ルト雖、其兆
 既ニ顯ハル、ヲ以テ、此夜探偵者三名ヲ藤崎へ
 遣ハシ、參事小關敬直、大屬仁尾某、警部村上某、巡
 査坂口某、縣令ノ宅ニ聚會シ、事ニ先ダツテ鎮壓
 スベキノ議ヲ運ラス、暴徒亦此夜其機ヲ察シ、其
 黨ニ謀シ、探偵者ヲ切害シ、騎虎ノ勢ヒニ乘ジ、百
 七十餘人ヲ數隊ニ分チ、加々見十郎等五十七人、
 鹿島甕雄等六十六人ハ、砲隊二營へ、千葉真鞆等

六人ハ、高島中佐、浦楯記等五人ハ、大田黒維信
へ、齋藤熊五郎等三人ハ、與倉中佐へ、赤嶺一雄等
十人ハ、種田少將へ、吉村一等五人ハ、安岡縣令へ
亂入ト定メ、竹筒ニ火藥ヲ込メ、手々ニ之ヲ擲チ、
各所一齊ニ亂入ス、此時ニ當リ、種田少將ハ寢ニ
在リ、火ノ起ルヲ見テ、急ニ戸ヲ出ントス、暴徒既
ニ内ニ入テ、之ヲ切害ス、安岡縣令始メ、事ヲ議レ
テ堂ニ在リ、賊吉村等數人、突然刀ヲ揮ヒ、斫入り、
火ヲ其邸ニ放ツ、安岡小關重傷ヲ負ヒ、仁尾ハ疵
淺ク、乃チ免レ去ル、村上赤手ヲ以テ賊ト相搏チ、

又重傷ヲ被リ、明日遂ニ死ス、安岡モ亦尋テ死ス、
陸軍大佐高柳邦秀、中佐高島茂徳、大島義昌、大尉
豊田中江以下、各自宅ニアリ、俄ニ賊徒ニ襲撃セ
ラレ、重傷ヲ以テ死ス、此夜少尉鈴木重郎、營中ニ
在リ、賊兵来リ襲フト聞キ、急ニ兵卒ヲ指揮シ、奮
撃突戦ス、賊近クヲ得ズ、此營特リ害ヲ免ル、中
屬岩波美篤、賊兵ト激戦シテ、賊一人ヲ擊殺ス、其
懷中ヲ檢スルニ、一通ノ書アリ、則チ賊等人負分
配ノコトヲ記スト云フ、大田黒維信ノ宅ハ、城外ニ
アリ、賊同時ニ火ヲ放ツテ侵入ス、維信傷ヲ負フ

ト雖^レ氏幸ニシテ脱^ル時ニ中佐與倉知實賊兵ニ
 襲^{ハレ}傷ヲ被^{ルト}雖モ勢ヒ屈^{セズ}自ラ聯隊旗^ヲ
 護^{シテ}逃^レ出^服ヲ變^シ營中ニ馳^{入り}令旗ヲ
 振^ヒ衆兵ヲ激^シ賊ヲ擊^ツ臺兵ノ一旦四方ニ散^ル
 走^{スル}者悉ク還^テ銃ヲ執^リ吶喊進擊ス賊一敗
 還^タ返戰スル能^{ハズ}巨魁加陽榮太上野謙吾大
 野鐵平等ハ戰死シ賊徒多クハ殺傷セラレ纔^カ
 ニ免^ル者モ亦傷ヲ負^ヒ還^タ軍スル能^{ハズ}夜
 未^ダ明^ルニ及^{バズ}シテ鎮定ニ歸^ス此時熊本縣
 權中屬長久保猷地租改正ノ事ヲ以^テ福岡熊本

賊徒電
 信局へ
 亂入ス
 圖



金峯山
肥後
熊郡

ノ縣界ヲ巡回ス、途ニシテ賊起ルト聞キ、其電線ヲ截斷センヲ慮リ、急ニ馳セテ、福岡ノ電信局ニ赴キ、其暴舉ヲ東京ニ報ズ、賊徒果シテ、電信局へ亂レ入り、器械ヲ破壊シ、通信ヲ絶ツ、然レモ保猷已ニ電報スルヲ以テ、機ヲ誤タズ、東京及ビ其他鎮臺出兵シ、九州ヲ鎮壓ス、其速カナルヲ得ルモノハ、保猷ノ功ナキニ非ザルナリ○二十五日、曉、殘賊散シテ、金峯山ニ隠ル、或ハ山麓ニ自刃スル者アリ、午前七時、臺兵悉ク整列シテ、熊本ノ周圍ヲ警衛シ、賊徒戡定スル趣ヲ、陸軍省ニ電報ス、

此日秋月士族等、熊本ノ暴舉ヲ聞キ、今村百八郎、磯淳、宮崎車之助、土岐清、白根益之進、同進太郎等、魁首トナリ、同志百餘人ヲ召募ス、其隊ヲ有志隊ト号ス、同日、中佐樺山資紀、命ヲ受ケ、軍資金ヲ玄龍丸ニ載セ、東京ヲ發ス、○二十六日、秋月ノ賊、長刀ヲ佩ビ、兵器ヲ携ヘ、舊城下ヲ距ル一里半許、甘木町ニ嘯集シ、西福寺ニ屯シ、以テ熊本ニ應援セントス、其徒漸ク加ハリテ、五百餘人ニ至ル、而シテ熊本既ニ殄滅ニ就クヲ聞キ、衆情稍阻ム、然レモ此事茲ニ至リ、止ムヲ得ズ、兵備ヲ整ヘ、巡查ヲ逐

七、甚ダ猖獗ヲ極ム、遂ニ二隊ニ分レ、一隊三百餘人ハ、豊津小倉ノ士族ヲ煽動シ、俱ニ山口縣下萩ニ抵リ、前原一誠ニ投ゼント、路ヲ轉ジテ飯塚ニ向フ、一隊二百人ハ、久留米柳川ヲ煽動セントス、此日、内務少輔林友幸、陸軍少將大山巖、三浦梧樓、其他官吏十餘名ヲ熊本ニ派遣ス、乃チ春日艦ニ乗ジ、横濱ヲ發ス、故熊本藩知事細川護久、請テ家令樋口某ヲシテ、林内務少輔ニ隨行セシメ、大義名分ヲ辨ジ、朝旨遵奉スベキ意ヲ、旧藩士ニ説諭セシム、○二十七日、熊本餘賊、悉ク戡定シ、秋月暴

徒分隊シテ、筑後ニ出ルノ風説アルヲ以テ、鎮臺歩兵二中隊ヲ分ツテ、久留米ニ遣ル、秋月ノ賊、久留米ニ向フ者、其備ヘアルヲ聞キ、計出ル所ナク、皆軍門ニ降服ス、此日、山口縣士族從四位前原一誠、預ジメ陰謀アルヲ以テ、横山俊彦、奥平謙輔等ト相謀リ、徒黨百餘人ヲ集テ、明倫館ニ會ス、時ニ一誠、一時ノ虚聲ヲ藉リ、士民ヲ鼓動セント欲シ、薩ノ西郷隆盛ヨリ、小銃三千挺、大砲八門ヲ送致スル由ヲ稱ヘ、以テ賊徒暴動ヲ鎮禦スト偽リ、縣令開口隆吉ニ告グ、其義ニ及バザル旨ヲ以テ、縣

令直チニ衆士ヲ解散スベシト諭ス、一誠陽諾シ
テ聽カズ、陰ニ石雲ノ間ニ徇ヘ、同志ヲ募ラント
ス、初メ一誠ノ事ヲ舉ルヤ、白刃數十本ヲ出シ、室
ヲ脱シテ倒立シ、衆士ニ令シテ曰ク、身不肖ト雖
モ、誓テ君側ノ惡ヲ清メントス、因テ吾今天子ニ
代リ、諸君ニ節刀ヲ授ク、勉メヨヤト、佐員以下皆
白刃ヲ賜ヒ、以テ其議ヲ固クス、○二十八日、午後
五時、縣令關口隆吉、自カラ屬官四人ヲ率キ、萩へ
出張セント欲シ、直チニ鎮臺營所へ報ジ、臨時出
兵ヲ托シ、二中隊ヲ率キ、萩街道一ノ坂へ進ム、午

後七時、萩出張ノ警部ヨリ、明倫館ニ屯集ノ激黨、
大區扱所へ逼リ、兵糧ヲ出サシメ、或ハ軍資金ヲ
課スト報知アリ、又山口ニ向テ進ムノ勢ヒアリ
ト報ズ、縣令兵隊ヲ分ツテ、部署ヲ定ム、時ニ萩出
張ノ屬官ヨリ、昨日午後五時、各員、學校ニ赴キ、解
散ノ令ヲ布クヲ以テ、黨人解散スベシト承服ス
ル由ヲ報ズ、先是前原等既ニ開戦ノ議ニ決シ、隊
伍ヲ編制セントス、其小銃ノ乏キラ患ヒ、急ニ計
策ヲ廻ラシ、偽使ヲ小銃製造所へ遣ハシ、區長ノ
指揮ト稱シ、小銃三千挺ヲ借受ンヲ乞フ、所長

須佐 長門
阿武郡

根津中尉之ヲ拒テ曰ク、鎮臺若クハ縣印ノ證アリヤ、果シテアラバ、之ヲ示セト、前原等大ニ阻ム、且ツ關口縣令、二中隊ヲ率キ來ルト聞キ、議シテ横山俊彦ヲシテ、扱所ニ儲蓄スル所ノ公金ヲ掠奪セシメ、急ニ衆賊ト俱ニ小舟ニ駕シ、須佐ニ脱走ス、時ニ一誠、必勝ノ算ナキヲ慮リ、因テ道ヲ山陰ニ取リ、關下ニ諫死スト言ヒ觸ラシ、縣令及ビ鎮臺士官ニ遺シテ、其意ヲ報ジ、又太政大臣以下、數十名ノ大吏、鄙猥ノ資ヲ以テ、顯榮ノ位ヲ竊ム趣キノ、檄文ヲ四方ニ傳播シ、陰ニ黨與ヲ募リ、菽

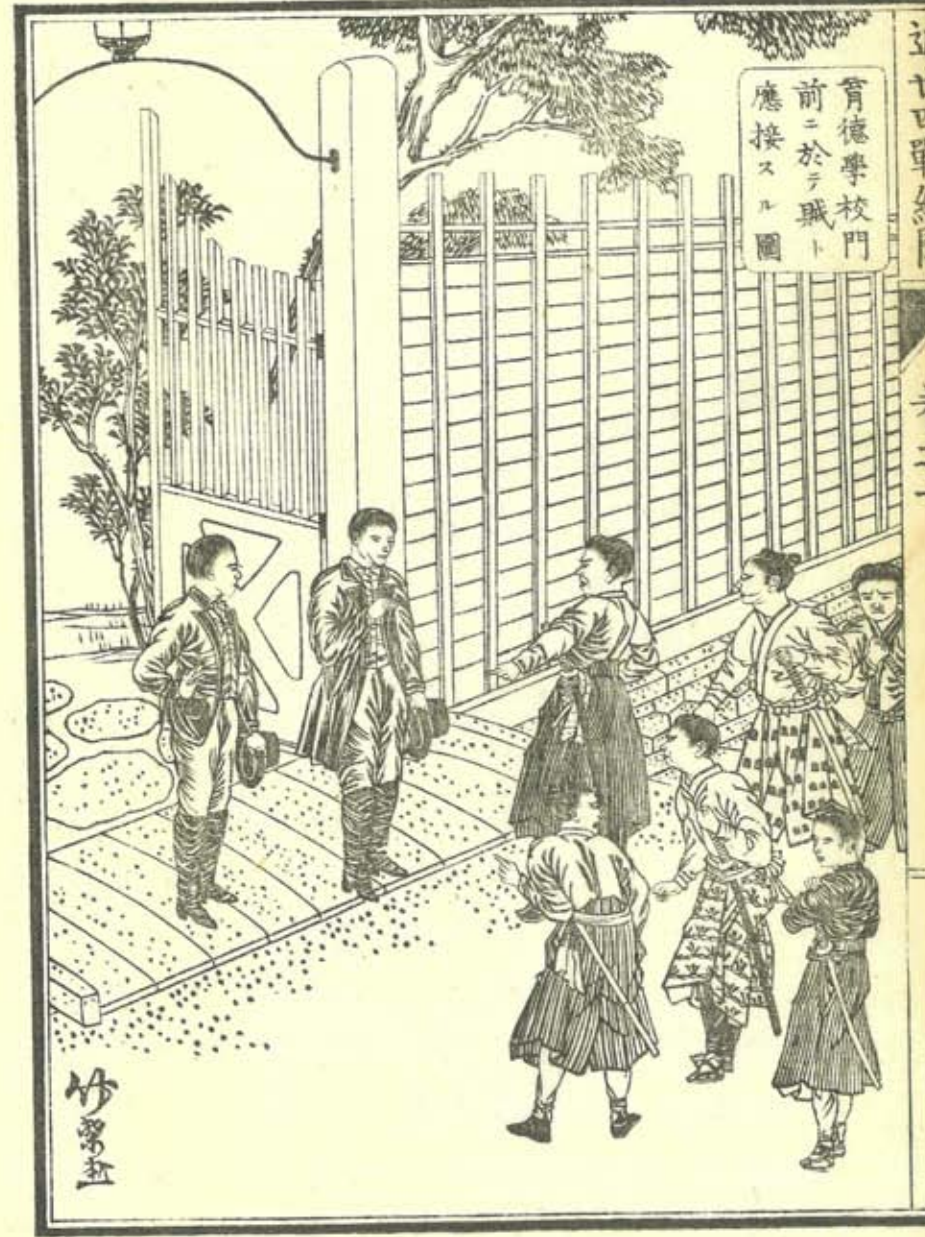
秋月 筑前
豊後郡

城ヲ不意ニ返擊セントス、此日、秋月ノ賊魁等、兵二百餘人ヲ率キ、味爽油須原ヨリ豊津ニ向テ發シ、木山村ニ至リ、其兵士ヲ駐メ、豊津士族ヲ煽亂セント欲ス、豊津人之ニ應ゼズ、各所ニ兵ヲ分ケ、以テ不虞ニ備フ、正午十二時、賊數隊ニ分レ進行ス、此日更ニ陸軍少將三浦梧樓、權大史品川弥二郎ヲシテ、山口縣へ出張セシム、同日詔メ熊本賊徒追討ノ朝旨ヲ四方ニ布告ス、少警視槍垣直枝、迫田利綱、權少警視神足勘十郎、權大警部中嶋時利、北森義敬、中警部園田安賢、權中警部濱田清輔

近世四國通記 卷之十一
等警部補十名、巡查百餘名ヲ率キ、東海丸ニ乗ジ、
東京ヲ發ス、又品川丸ニ彈藥ヲ積ミ、之ヲ長崎港
ヘ發遣ス、○二十九日、秋月ノ賊、續命院村ニ進ミ、
遂ニ豐津ニ入り、育徳學校ニ迫リ、校内ノ士ニ面
セシメテ乞フ、因テ校中ノ士、門外ニ於テ應接ス、
賊隊ヲ分チ、校ノ四方ニ布キ、俱ニ出陣セザレバ、
直チニ暴發ノ勢ヒアリ、先是、陸軍中佐堀江芳介、
西部檢閱使ニ隨行シテ、小倉ニ在リ、賊徒、豐津ニ
逼ルト聞キ、急ニ臺兵ヲ率キ、進テ行司村ニ至ル、
相距ル遠カラズ、賊徒未ダ之ヲ知ラズ、豐津ノ軍、

備ナキヲ見侮リ、威カラ以テ、凌壓セントス、午後
四時、官兵發砲シテ進ミ至リ、隊ヲ分チ、一隊ハ國
分村ヨリ校ノ左ニ出デ、一隊ハ直チニ進デ、校ノ
右ニ出デ、急ニ銃擊ス、飛丸雨ノ如シ、賊砲聲ヲ聞
キ、大ニ駭ク、此ニ至テ、一戰支ヘズ、四方ニ潰亂シ、
再ビ兵ヲ集メテ、應戰セントス、豐津ノ士族等、官
兵ノ嚮導トナリ、或ハ前後ニ從ヒ戰フ、在校ノ士、
亦砲聲ヲ聞キ、果シテ官兵ノ至ルヲ知り、奮進シ
テ賊軍ニ當ル、賊大ニ辟易シテ、敗レ逃ル、豐津士
族、官兵ト共ニカヲ合シ、賊ノ北ルヲ逐ヒ、竟ニ二

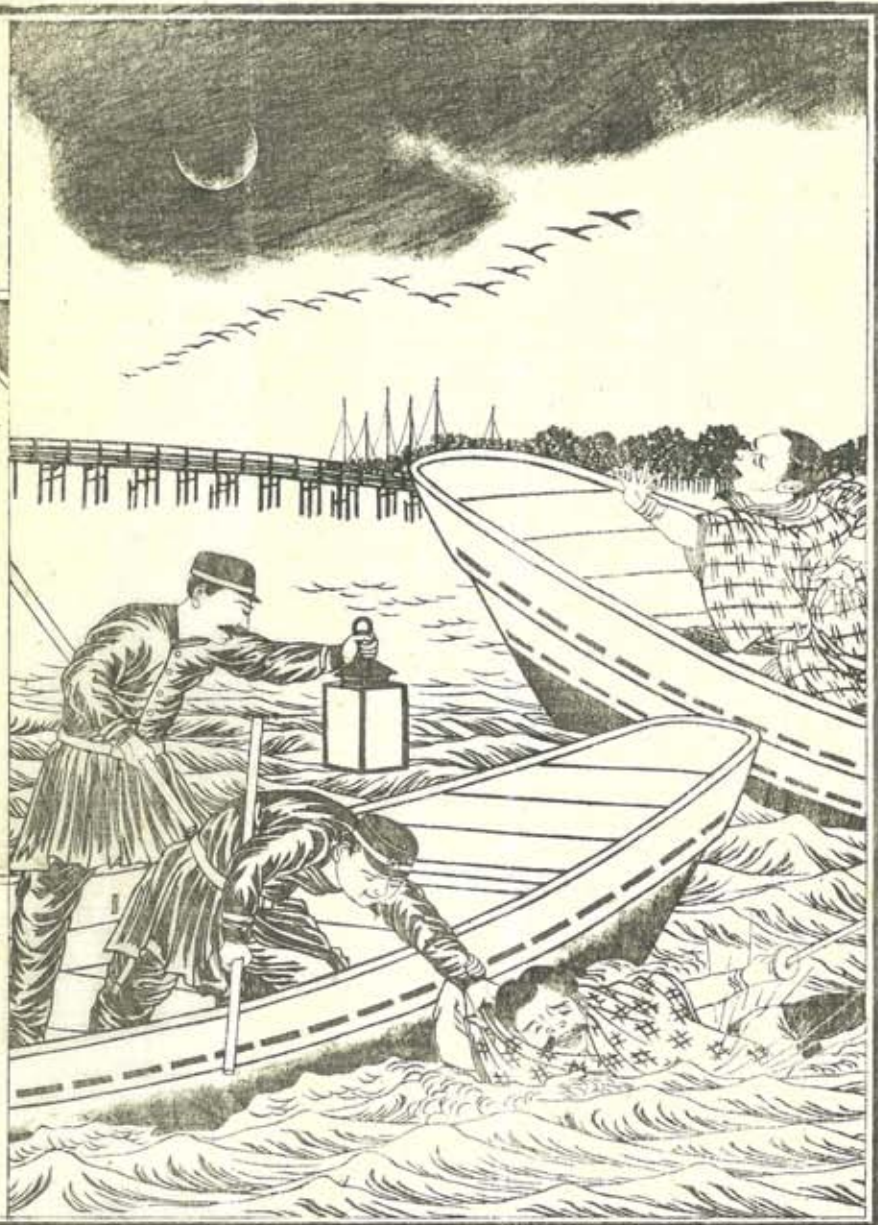
育徳學校門
前ニ於テ賊ト
應接スル圖



竹繁五

佐良 長門
阿蘇郡

十人餘ヲ斬獲ス、殘賊奔竄シテ、彦山ニ匿ル、此日、
關口山口縣令進テ佐々浪驛ニ至リ、人ヲ萩ニ遣
リ、暴徒脱走後ノ人民ヲ鎮定シ、區長横山俊彦ヲ
探索捕縛セシム、此夜、東京思案橋ニ賊アリ、巨魁
永岡久茂始メ、十三人、各兵器ヲ携ヘ、下總國登戸
船ヲ雇ヒ、急ニ乗去ントス、舟子其狀ヲ異トシ、之
ヲ巡查ニ報ズ、警部補寺本義久、巡查河合好直、木
村清三、黒野巳之助等、馳セ來リ、其姓名ヲ詰問ス、
賊徒等直チニ刀ヲ蝙蝠傘ノ中ヨリ抜き出シ、寺
本警部及ヒ河合木村ヲ亂斫ス、黒野傷ヲ被ル、尋



前原、與黨
、深川佐賀
町、川側ニ
捕縛スル圖



竹多五

テ巡查等數十人、馳セ至リ、其六人ヲ捕縛ス、餘皆
遁レ去ル、同夜深川佐賀町ノ川側ニ、賊五人アリ、
舟ニ掉シ、潮ニ溯リテ至ル、巡查之ヲ見テ、直チニ
輕舸ヲ走ラセ、其賊船ヲ圍ミ、近ヅキ逼リテ、悉ク
捕縛ス、其賊皆前原ノ與黨ニシテ、久茂ニ屬スル
者、久茂嚮キニ東京ニ在リ、一誠ト陰ニ謀リ、商法
ノ暗號ヲ以テ、電信ヲ通ジ、此日、下總ニ航シ、千葉
縣廳ヲ襲ヒ、軍資金ヲ奪ヒ、兼テ縣下ニ配布スル
所ノ、巡查某等ト俱ニ、佐倉兵營ニ侵入シ、兵ヲ擁
シテ、東北ノ要衝ヲ扼シ、東西同時ニ事ヲ舉ント

明木 長門
阿武郡

ス、事發覺シ、遂ニ其黨與ト共ニ刑セラレ、殘賊松
本正直身ヲ脱ノ、新潟縣ニ奔ル、亦縛ニ就ク、○三
十日、秋月ノ賊、彦山ヨリ出テ夫婦石村ニ至リ警
察所へ火ヲ放チ、秋月ニ還ル、臺兵其逃ルヲ追ヒ、
長驅進ミ入ルト聞キ、賊銳氣頓ニ衰へ、或ハ脱走
シ、或ハ縛ニ就ク、賊魁白根益之進ハ、豊津ニ戰死
シ、宮崎車之助、磯淳ハ江川原ニ自殺ス、餘賊皆縛
ニ就ク、豊津ノ戰、官兵死スル者、僅カニ一人ノミ、
此日午後四時、關口縣令、明木驛ニ至リ、萩市中ニ
三條ヲ揭示ス、其一暴徒ノ罪ヲ正スガ爲ニ進撃

山田

長門
阿蘇郡

ス、其二脅誘ノ者、悔悟自首セバ、寛典ニ處ス、其三
脱走人ノ妻孥ニシテ、野心ナキ者ハ問ハズト、午
後周防徳山ノ警報至ル、同日曉徳山士族五十六
名、羣起シ、拔カシテ山田村ニ亂入シ、同所警察所
ニ火ヲ放チ、廩米ヲ奪ヒ、擲ケ濱ヨリ小舟ニ乗リ
脱走ス縣令萩ニ在リ、事變ヲ聞キ、嚴ニ地方ヲ探
偵シテ、之ヲ捕縛セシム、其巨魁小笠原男也、堺新
三郎等皆一誠ト謀ヲ通ズル者ナリ、尋デ縛ニ就
ク、時ニ西南逆徒蜂起ノ電報屢々東京ニ至ル、前
原一誠反狀明白ナルヲ以テ、詔シテ其位記ヲ褫

越濱

長門
阿蘇郡

奪シ、征討ノ令ヲ下シ、嚴ニ四方ニ令シテ、脱走徒
ヲ探索捕縛セシム、○三十一日、萩ノ賊魁、既ニ須
佐ニ走ルト聞キ、關口縣令、其殘黨ヲ捕縛セント、
兵卒ヲ引キ、萩會議所ニ赴キ、其處分ヲ議ス、時ニ
一誠潜カニ航ノ、萩ニ還リ、味爽越ケ濱ヨリ上陸
シ、隊伍ヲ整列シ、突然巨砲ヲ連發シテ、官軍ノ不
意ヲ襲撃ス、縣令護衛ノ臺兵等、一時擾亂更ニ隊
伍ヲ整ヘテ進撃ス、賊徒熟地ニ據リ、官兵ヲ不利
ノ地ニ引入レ、撤兵ヲ出沒セシメテ、大ニ攻撃ス、
銃丸雨ノ如ク注ギ、官軍死傷多シ、田原大尉司令

長官須田某、傷痕ヲ負フ、乃チ兵卒ヲ收テ守線ヲ保チ、援軍ノ至ルヲ待チ、賊兵ヲ一舉ニ殲セント欲シ、令ヲ下シテ進撃ヲ止ム、賊亦彈藥已ニ匱乏ナルヲ以テ、相持シテ戰ハズ、縣令其他屬官等、銃丸ヲ避ケ恙ナキヲ得タリ、時ニ小銃鑄造所長、根津中尉モ亦坐ニアリ、所管所ヲ危ミ、遁レテ途上ニ賊數人ヲ殺傷シ、還テ鑄造所ヲ保ツ、○十一月一日、廣島鎮臺兵、進テ萩ノ大橋ニ陣シ、大小砲銃ヲ連發ス、賊等亦死カヲ盡シ防戰ス、死傷相當ル、日已ニ暮ニ及ブ、官軍尚ホ大橋ニ據リ拒守ス、此日

三浦少將、山口ニ至リ、乃チ田付少佐ヲ廣島ニ遣ハシ、其地ノ三中隊ヲ率キ、雲州地方ト、廣島海岸トヲ扼シ、賊ノ走路ヲ絶チ、大坂ニ電報シテ、臺兵ヲ徵シ、軍艦ヲ來タシ、萩近海ヲ警備シ、將サニ一舉シテ、賊徒ヲ夷滅セント欲ス、此日、雲揚艦横濱ヲ發シ、長崎ニ赴カントス、乃チ紀州灘ニ向フ、風浪暴カニ起リ、艦爲メニ覆没ス、士官八人、水夫十五人、竟ニ溺死ス、大坂鎮臺第八聯隊第一大隊砲兵一小隊、神戸ヲ發シ、山口ニ向フ、○二日、山口ノ官軍、廣島大坂ノ臺兵繼ギ至ルヲ聞キ、士氣益振

フ、賊軍既ニ糧盡キ、彈藥亦乏キヲ以テ、輒チ一砲
ヲ發セズ、殆ンド衰頹ノ色ヲ兆ス、○四日、官軍進
デ、觀音橋ト濁淵町ノ兩地ヲ擊破ス、賊死傷アリ、
此日、三浦少將、一誠ニ書ヲ寄セテ曰ク、足下嘗テ
重職ニ擧ラレ、顯位ヲ辱クス、草野ニ退卧スト雖
モ、庶議合ハザル所ハ、宜シク極言論陳スベシ、今
甘ンジテ叛亂ノ賊トナリ、無賴凶徒ヲ率キ、毒ヲ
州郡ニ流ス、生靈何ノ罪アルヤ、且ツ過ル所、慘虐
放火シテ、盜ヲ爲ス、國憲ノ赦サバル所ナリ、僕鎮
臺司令ノ命ヲ奉ジ、來テ軍士ヲ督シ、方ニ兇賊足

下ノ如キ者ヲ、誅鋤セントス、不日、陸軍ヲ指揮シ、
旗鼓ヲ執テ相見ント、明日、關口縣令モ亦書ヲ贈
リ、告テ曰ク、疇昔ノ役、事草卒ニ起リ、滿城狼狽、婦
女老幼、彈丸兩射ノ中ニ號哭シ、傷痍殆ンド數百
人、其慘毒目擊スルニ忍ビザル者アリ、足下ト雖
モ、豈能ク之ニ忍ビンヤ、今海陸軍備、方ニ整フヲ
以テ、一舉鑿戰ノ期、將サニ近キニアラントス、願
ハクハ城中ノ居民ニ布告シ、速カニ遠地ニ避シ
メヨ、是亦足下、罪ヲ償フノ一事ナリ、余、縣官ノ乏
ヲ受ケ、職撫民ニ在リ、生靈ノ瘡痍、之ヲ傍觀ニ忍

前原一誠
 衆ヲ携ヘ
 テ因州ニ
 遁ル、圖



竹葉五



ビズ、依テ特ニ此ニ懇諭ス、足下ソレ意ヲ留メヨ
ト、一誠其書ヲ見テ省セズ、此日一誠竊カニ、奥平
謙輔、横山俊彦、白井林蔵、山田一昌、佐瀬一精等ト
共ニ海濱ニ遁シ、因州地方ニ脱走セントス、會々
一船ノ航スベキナシ、進退殆ンド極ル時ニ漁夫
一舟ヲ掉シ來ル者アリ、前原等、金百圓ヲ餌シ、澳
夫ヲ脅誘シテ、強テ其舟ニ乘リ、因州ニ走ル、海上
俄カニ暴風起リ、巨浪舟ヲ捲ク、乃チ舟子ヲ警メ、
怒潮ヲ凌ギ、石州津和野ヲ經テ、出雲瓜生港ニ達
ス、是ヨリ先キ、朝廷豫カジメ、脱賊逮捕ヲ、沿海各

地ニ電報ス、瓜生港ニ繫船アリ、中ニ兵器ヲ携ル
者ヲ見ル、警察官乃チ警部巡查等數人ヲ遣ハシ、
舟中ヲ查ス、前原以下潛匿ス、諭シテ縣廳ニ拘引
シ、悉ク之ヲ捕縛ス、時ニ十一月八日ナリトゾ、前
原縛ニ就ク時、國歌ヲ賦ス、鹿ヲサシ馬トイフテ
フ世ノ中ニ我真心ハ神モ知ルラン、奥平モ詩一
首ヲ詠ス、事既至斯無所爲、天之所制復奚疑於今
一死非遺憾、恰好神州未滅時、○五日、大坂鎮臺兵
一隊、砲兵一小隊、萩ニ入り、山口ノ二中隊ト合シ、
戰備全ク整フ、三浦少將、自ラ諸隊ヲ指揮シ、明日

大井 長門
阿蘇郡

ヲ待チ、賊ノ巢窟ヲ攻圍セシトス、○六日、早天、海軍ハ戰艦四隻ヲ以テ、玉江、菊ヶ濱、鶴江、惠美、須ヶ鼻等ノ沖ヨリ、巨煩ヲ放ツ、黒烟空ニ漲リ、響キ霹靂ノ如シ、賊度ヲ失ヒ、四方ニ散亂セリ、時ニ三浦少將、陸地ノ兵ニ號令シテ、大小砲ヲ連發シ、縱橫交撃ス、海陸官兵、凡ソ三千五百、吶喊地ヲ震ヒ、銃丸雨霰ノ如シ、賊兵遂ニ支ヘズ、狼狽シテ、伏屍ヲ越エ、黒川口大井口ニ向ヒ、悉ク敗走ス、是ニ於テ、少將等、諸隊ヲ率キ、縣令ト共ニ藪ニ入り、人民ヲ鎮撫シ、榜ヲ建テ、暴亂平定ヲ布告ス、衆心始テ安

シ、初メ熊本暴賊ノ爲ニ戰没スル所、種田少將、高柳大佐、安岡縣令、小關參事、及ビ創傷ヲ受ル臺兵官吏等ヲ慰問セン爲、米田侍從ニ勅シ、熊本ニ派遣セシメ、金幣ヲ賜フ、各等差アリ、尋デ同縣下、花岡招魂社ノ傍ヲ、葬瘞地ト定メ、此日、種田少將、高柳大佐、大島、高島中佐ヲ始トシ、大少尉會計軍吏軍醫曹長以下、兵卒ニ至ルマデ、百十八名、及ビ長崎縣士二名ノ、遺柩ヲ此地ニ葬送セシム、儀衛甚ダ厚シ、道傍觀ル者、皆泣ヲ下ダシ、皇恩ノ優渥ヲ感ゼザルハナシ、○十四日、嶋根縣、賊魁前原一誠

等ヲ、山口縣ニ逋送ス、先是一誠以下縛ニ就ク、一誠曰ク、願ハクハ一ダヒ闕下ニ至リ、趣旨ヲ奏シ、然ル後ニ刑戮ニ就カント、之ヲ島根縣廳ニ歎訴ス、而ノ縣令可セズ、此日原籍地ニ護送ス、○十五日、賊徒犯罪處分トシテ、司法卿大木喬任、東京丸ニ乗ジ、出發ス、大丞渡邊驥、權少史横井香苗、判事西瀉納之ニ隨行ス、福岡縣ニ假リニ裁判所ヲ設ケ、六等判事岩谷龍一ヲ秋月ニ、五等判事小畑美稻ヲ熊本ニ、六等判事三好退藏ヲ鹿兒島ニ、四等判事岩村高俊ヲ、山口ニ派出セシム、○十二月三

日、賊徒罪案、已ニ審決スルヲ以テ、假リニ刑場ヲ設ケ、熊本賊、浦楯記、高津運喜、吉村義節等ヲ斬ニ處ス、其餘懲役四十七人、秋月ノ賊、今村百八郎、藍田靜方以下、懲役百四十二人、山口ノ賊、魁前原一誠、奥平謙輔、横山俊彦、山田一昌、佐瀬一精、有福允恂等ヲ斬ニ處シ、其餘除族十四人、懲役四十七人アリ、一誠刑ニ臨ミ、絶命ノ詩一首ヲ賦ス、我今爲國死、死、不負君恩、人事有通塞、乾坤吊我魂、謙輔以下各詩ヲ賦シ、絶筆ヲ留ム、是ニ於テ暴亂全ク鎮定シ、海陸諸軍、尋テ凱旋シ、各其捷ヲ奏ス、

近世四戰紀聞卷一終

